

(様式第 10)

群大医総 2 第 46 号
令和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人群馬大学
学 長 石崎 泰樹

群馬大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地
氏 名	国立大学法人群馬大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

群馬大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目 39 番 15 号 電話 (027) 220-7111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	③ 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	② 消化器内科
⑤ 神経内科	3 循環器内科
9 感染症内科	4 腎臓内科
	6 血液内科
	7 内分泌内科
	8 代謝内科
	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	11 リウマチ科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1呼吸器外科	2消化器外科
3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	6心臓血管外科
7内分泌外科	8小児外科
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科	2矯正歯科
③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1臨床検査科	2リハビリテーション科	3病理診断科	4形成外科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
40 床	2 床	9 床	0 床	680 床	731 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	290 人	337 人	498.6 人	看 護 補 助 者	45 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	10 人	24 人	24.1 人	理 学 療 法 士	15 人	臨床検査技師	75 人
薬 剤 師	59 人	0 人	59.0 人	作 業 療 法 士	5 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	8 人	そ の 他	0 人
助 産 師	31 人	0 人	31.0 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	813 人	31 人	835.4 人	臨 床 工 学 士	21 人	医療社会事業従事者	7 人
准 看 護 師	0 人	1 人	0.2 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	12 人
歯科衛生士	2 人	0 人	2.0 人	歯 科 技 工 士	2 人	事 務 職 員	279 人
管理栄養士	11 人	0 人	11.0 人	診療放射線技師	57 人	そ の 他 の 職 員	3 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	64 人	眼 科 専 門 医	12 人
外 科 専 門 医	32 人	耳鼻咽喉科専門医	12 人
精 神 科 専 門 医	7 人	放 射 線 科 専 門 医	24 人
小 児 科 専 門 医	17 人	脳神経外科専門医	13 人
皮 膚 科 専 門 医	7 人	整 形 外 科 専 門 医	19 人
泌尿器科専門医	14 人	麻 酔 科 専 門 医	25 人
産婦人科専門医	16 人	救 急 科 専 門 医	4 人
		合 計	266 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（齋藤 繁） 任命年月日 令和3年4月1日

医療業務安全管理委員会委員長（令和3年4月から現在）

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	531.8 人	14.4 人	546.2 人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1,641.9 人	82.3 人	1,724.2 人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	277 剤		
必要医師数	149 人		
必要歯科医師数	7 人		
必要薬剤師数	18 人		
必要（准）看護師数	330 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	1, 245 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	病 床 数	17 床	心 電 計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	404 m ²		病床数	10 床
	[移動式の場合]	台 数	台			
医 薬 品	[専用室の場合]	床 積	62 m ²			
情報管理室	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	621 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	(主な設備) 臨床化学・免疫自動検査システム 血液検査システム			
細菌検査室	83 m ²	〃	(主な設備) 細菌同定感受性総合検査システム			
病理検査室	116 m ²	鉄骨造	(主な設備) 自動標本染色装置, ミクロトーム他			
病理解剖室	186 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	(主な設備) 解剖台 他			
研 究 室	12,748m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) パソコン, 実験台, 遠心分離機, 書籍棚他			
講 義 室	1, 365 m ²	〃	室数	3 室	収容定員	522 人
図 書 室	2, 413 m ²	〃	室数	2 室	蔵 書 数	132, 382 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		89.0 %	逆紹介率		117.1 %
算出根拠	A：紹介患者の数		14,121 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		21,612 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,301 人		
	D：初診の患者の数		18,449 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者 団体連合会理 事長 一般社団法人 グループ・ネク サス・ジャパン 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2
岡崎 浩巳	地方公務員共 済組合連合会 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2
神谷 恵子	神谷法律事務 所弁護士		法律に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
児玉 安司	新星総合法律 事務所 弁護士/医師		医療に係る安全 管理に関する識 見及び法律に関 する識見を有す る者	有・ ☒ 無	1
中屋 光雄	群馬県医師会 監事		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
谷 修一	国際医療福祉 大学名誉学長		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
堀田 知光	国立がん研究 センター名誉 総長	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
吉田 慎一	株式会社テレ ビ朝日ホール ディングス代 表取締役社長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）

3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	○有・無
委員の選定理由の公表の有無	○有・無
公表の方法 大学ホームページに掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g25693	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するパクリタキセル毎週静脈内投与併用カルボプラチン3週毎腹腔内投与	0人
重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	2人
重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	2人
ゲムシタビン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	1人
重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	1人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	十二指腸内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 十二指腸腫瘍に対して内視鏡治療として全身麻酔下で内視鏡的粘膜下層剥離術を行う。			
医療技術名	核酸医薬を用いた脊髄性筋萎縮症に対する新規治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 SMN(survival motor neuron)2遺伝子のmRNA前駆体のimtron7に相補的に結合し、本来欠失するexon7を含む完全長のSMN蛋白を作らせるアンチセンス核酸医薬を髄注することで症状の改善を図る新規治療。			
医療技術名	大動脈ステントグラフト治療	取扱患者数	83人
当該医療技術の概要 胸部・腹部大動脈瘤に対して開胸・開腹を加えずに血管内で治療が可能。			
医療技術名	弁形成術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 弁膜症に対して人工弁を使わずに形成のみで治療を行う。(ワーファリンなどの投薬が不要となる。)			
医療技術名	オフポンプ冠動脈バイパス	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 狭心症に対する治療で人工心肺を使用せず、拍動下で行う治療。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 膵臓の低悪性度の腫瘍に対して、開腹ではなく腹腔鏡を用いて低侵襲な手術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除以上)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 肝臓の腫瘍に対して、腹腔鏡手術の適応を見極め、亜区域切除以上の拡大術式に関して、腹腔鏡を用いた肝切除を行う。			
医療技術名	精索静脈瘤手術時におけるICG蛍光造影の有用性	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 精索静脈瘤に対する顕微鏡下低位精索結紮術時にICG蛍光血管造影を併用することで、微細な動脈の温存が可能になる。			
医療技術名	腫瘍脊椎骨全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 主に悪性腫瘍の脊椎転移に対して、腫瘍脊椎骨を全切除することで根治を目指す手術。			
医療技術名	小児における急性血液浄化療法(体外循環を用いる)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 小児の急性腎障害、多臓器不全などに対して、体外限外濾過、血液濾過、血液濾過透析、血液透析を行う。体格の小さい小児に対するブラッドアクセスとその管理や鎮静を含む全身管理には集学的な高度医療を要する。			
医療技術名	小児におけるアフエレーシス療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 小児の炎症性腸疾患、腎疾患、自己免疫性疾患などにおける除去療法はブラッドアクセスとその管理や鎮静を含む全身管理には集学的な高度医療を要する。			

医療技術名	小児慢性腎不全に対する腹膜透析療法・管理	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 小児における保存期および末期腎不全の全身管理は成人と異なり、成長を念頭に置いた補充療法や、慢性腎不全に対する腹膜透析療法は透析処方およびカテーテル管理に高度の技術と専門性を要する。			
医療技術名	乳幼児における開放性腎生検	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 乳幼児における腎生検は腎サイズが小さいこと、局所麻酔では安全な安静が確保できないことから、全身麻酔管理下に泌尿器科医による開放性腎生検を要し、集学的な高度医療である。			
医療技術名	長時間脳波検査	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 てんかんにおける焦点特定や発作型の判定、てんかん外科の適応の判断において重要とされている。数時間～数日間の記録を必要とし、小児においては測定・記録できる施設が限られているうえに、記録・判読にも高度な技術を要する。			
医療技術名	終夜睡眠ポリグラフ検査	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 睡眠障害や夜間の呼吸障害の鑑別に有用である。測定機器を有する施設が限られており、特に小児においては計測の技術や検査結果の判読に熟練を要する。			
医療技術名	難治性神経疾患ならびに遺伝性疾患に対する遺伝子検査ならびに遺伝カウンセリング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 希少疾患に対する豊富な知識と遺伝学的カウンセリングがともに行える環境が必要である。			
医療技術名	小児に対するCSII(インスリンポンプ療法)／SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 小児糖尿病患者に対する電動式携帯ポンプにより可変式かつ持続的に皮下にインスリン注入する治療法。			
医療技術名	小児の難治性内分泌腫瘍の薬物治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 手術不能例や再発例の下垂体性巨人症、クッシング症候群などの小児の難治性内分泌腫瘍に対し専門的な薬物療法を施行している。			
医療技術名	小児の家族性高コレステロール血症ホモ接合体に対する抗PCSK9モノクローナル抗体製剤治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 家族性高コレステロール血症ホモ接合体小児例に対し、抗PCSK9モノクローナル抗体を投与することで、LDL吸着療法を要さない経過を得ている。			
医療技術名	難治性アレルギー性疾患に対する生物学的製剤による治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 小児期発症難治性アレルギー性疾患は免疫異常を有する頻度が高く、アレルギー反応等も重篤であり、専門的な知識と対応を要する。			
医療技術名	免疫異常症に対する生物学的製剤による治療	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 小児の免疫異常症は若年性特発性関節炎、ぶどう膜炎、自己炎症性疾患・炎症性腸疾患など希少な疾患が多岐にわたるため、豊富な知識と経験が必要とする。			
医療技術名	小児に対する消化器内視鏡検査	取扱患者数	102人
当該医療技術の概要 小児では鎮静下に検査を行う必要がある他腹壁が薄いこと、成人と異なる病態により所見が異なることなどから専門的な知識と経験を要する。			
医療技術名	子宮悪性腫瘍手術(広汎切除)(腹腔鏡下)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 早期子宮頸癌に対して、腹腔鏡下に広汎子宮全摘術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 早期子宮体癌に対して、腹腔鏡下に傍大動脈リンパ節郭清術を行う。			

医療技術名	子宮体がんに対するロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 早期子宮体癌に対して、ロボット支援下で必要時に骨盤内リンパ節郭清を含む子宮悪性腫瘍手術を行う。			
医療技術名	眼感染症網羅的PCR検査	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 眼感染症(感染性ぶどう膜炎)の病因診断を行う。微量な前眼房水から直接マルチプレックスPCRを行い9種類のウイルスを検出することが可能。(2021年5月から検査開始)			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 血管拡張作用のある一酸化窒素ガスを直接肺に吸入することにより、肺血管抵抗を下げて循環動態を改善させる治療法。他の薬剤療法と比べ、体血圧に影響を与えず肺動脈のみを選択的に拡張させることが利点であり、比較的安全に施行可能であるが、血小板機能障害やメトヘモグロビン血症などの副作用に注意して行う必要がある。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数		疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	11	56	下垂体性TSH分泌亢進症	1
2 筋萎縮性側索硬化症	27	57	クッシング病	13
3 脊髄性筋萎縮症	2	58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	1
4 進行性核上性麻痺	10	59	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	8
5 パーキンソン病	121	60	甲状腺ホルモン不応症	4
6 大脳皮質基底核変性症	4	61	アジソン病	4
7 シャルコー・マリー・トウス病	6	62	サルコイドーシス	125
8 重症筋無力症	137	63	特発性間質性肺炎	48
9 多発性硬化症／視神経脊髄炎	125	64	肺動脈性肺高血圧症	64
10 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	23	65	慢性血栓性肺高血圧症	7
11 封入体筋炎	7	66	リンパ管筋腫症	10
12 クロウ・深瀬症候群	1	67	網膜色素変性症	3
13 多系統萎縮症	9	68	特発性門脈圧亢進症	2
14 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	61	69	原発性胆汁性肝硬変	173
15 ライソゾーム病	1	70	原発性硬化性胆管炎	5
16 ミトコンドリア病	7	71	自己免疫性肝炎	37
17 もやもや病	26	72	クローン病	94
18 進行性多巣性白質脳症	1	73	潰瘍性大腸炎	127
19 特発性基底核石灰化症	1	74	好酸球性消化管疾患	16
20 全身性アミロイドーシス	2	75	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
21 遠位型ミオパチー	1	76	筋ジストロフィー	4
22 自己食空胞性ミオパチー	1	77	脊髄空洞症	4
23 神経線維腫症	1	78	アイザックス症候群	2
24 天疱瘡	7	79	結節性硬化症	10
25 表皮水疱症	10	80	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
26 膿疱性乾癬(汎発型)	7	81	特発性後天性全身性無汗症	4
27 スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	82	マルファン症候群	2
28 高安動脈炎	3	83	エーラス・ダンロス症候群	1
29 結節性多発動脈炎	15	84	無脾症候群	1
30 顕微鏡的多発血管炎	60	85	ウェルナー症候群	2
31 多発血管炎性肉芽腫症	30	86	プラダー・ウィリ症候群	3
32 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	29	87	ヌーナン症候群	1
33 悪性関節リウマチ	15	88	単心室症	1
34 パージャー病	21	89	ファロー四徴症	1
35 原発性抗リン脂質抗体症候群	2	90	急速進行性糸球体腎炎	60
36 全身性エリテマトーデス	584	91	抗糸球体基底膜腎炎	2
37 皮膚筋炎／多発性筋炎	216	92	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
38 全身性強皮症	186	93	オスラー病	3
39 混合性結合組織病	99	94	閉塞性細気管支炎	1
40 シェーグレン症候群	502	95	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2
41 成人スチル病	20	96	肺胞低換気症候群	2
42 再発性多発軟骨炎	7	97	$\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	1
43 ベーチェット病	64	98	副甲状腺機能低下症	9
44 特発性拡張型心筋症	32	99	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3
45 肥大型心筋症	14	100	家族性地中海熱	4
46 再生不良性貧血	43	101	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	6
47 自己免疫性溶血性貧血	17	102	強直性脊椎炎	16
48 発作性夜間ヘモグロビン尿症	5	103	骨形成不全症	1
49 特発性血小板減少性紫斑病	56	104	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
50 血栓性血小板減少性紫斑病	3	105	後天性赤芽球癆	2
51 原発性免疫不全症候群	6	106	アラジール症候群	1
52 IgA 腎症	49	107	IgG4関連疾患	22
53 多発性嚢胞腎	7	108	黄斑ジストロフィー	2
54 黄色靱帯骨化症	2	109	レーベル遺伝性視神経症	1
55 後縦靱帯骨化症	9	110	好酸球性副鼻腔炎	25

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	無虹彩症	1	166		
112	特発性多中心性キャスルマン病	6	167		
113			168		
114			169		
115			170		
116			171		
117			172		
118			173		
119			174		
120			175		
121			176		
122			177		
123			178		
124			179		
125			180		
126			181		
127			182		
128			183		
129			184		
130			185		
131			186		
132			187		
133			188		
134			189		
135			190		
136			191		
137			192		
138			193		
139			194		
140			195		
141			196		
142			197		
143			198		
144			199		
145			200		
146			201		
147			202		
148			203		
149			204		
150			205		
151			206		
152			207		
153			208		
154			209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算
・特定機能病院入院基本料	・認知症ケア加算2
・救急医療管理加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・地域医療体制確保加算
・医師事務作業補助体制加算1	・地域歯科診療支援病院入院加算
・急性期看護補助体制加算	・特定集中治療室管理料2
・看護職員夜間配置加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・看護補助加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料2
・緩和ケア診療加算	・抗菌薬適正使用支援加算
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・ウイルス疾患指導料	・歯科疾患在宅療養管理料の注4に規定する在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料イ	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ロ	・BRCA1/2遺伝子検査
・がん患者指導管理料ハ	・先天性代謝異常症検査
・がん患者指導管理料ニ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来緩和ケア管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・検体検査管理加算(1)
・糖尿病透析予防指導管理料	・検体検査管理加算(4)
・小児運動器疾患指導管理料	・国際標準検査管理加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・遺伝カウンセリング加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・腎代替療法指導管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・外来放射線照射診療料	・ヘッドアップティルト試験
・ニコチン依存症管理料	・人工臓器検査、人工臓器療法
・がん治療連携計画策定料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・光トポグラフィー
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・神経学的検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・黄斑局所網膜電図
・医療機器安全管理料1	・全視野精密網膜電図
・医療機器安全管理料2	・ロービジョン検査判断料

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・コンタクトレンズ検査料1	・口腔粘膜血管腫凝固術
・小児食物アレルギー負荷検査	・レーザー機器加算
・内服・点滴誘発試験	・人工腎臓
・画像診断管理加算1	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・画像診断管理加算3	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ポジトロン断層撮影	・手術用顕微鏡加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・歯科技工加算1及び2
・CT撮影及びMRI撮影	・センチネルリンパ節生検(片側)
・冠動脈CT撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・心臓MRI撮影加算	・椎間板内酵素注入療法
・乳房MRI撮影加算	・腫瘍脊椎骨全摘術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・頭部MRI撮影加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・角膜移植術(内皮移植加算)
・外来化学療法加算1	・羊膜移植術
・無菌製剤処理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・心大血管疾患リハビリテーション料(1)	・網膜再建術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	・人工中耳植込術
・運動器リハビリテーション料(1)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・呼吸器リハビリテーション料(1)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)
・がん患者リハビリテーション料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・リンパ浮腫複合的治療料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・認知療法・認知行動療法1	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳がんセンチネルリンパ節加算1))
・医療保護入院等診療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(センチネルリンパ節生検(併用))
・口腔粘膜処置	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術)
・内視鏡下筋層切開術	・輸血管理料1
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・輸血適正使用加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・歯周組織再生誘導手術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・歯根端切除手術の注3
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・麻酔管理料(1)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・麻酔管理料(2)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・放射線治療専任加算
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・外来放射線治療加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下肝切除術	・1回線量増加加算
・生体部分肝移植術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・定位放射線治療
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・粒子線治療
・同種死体腎移植術	・粒子線治療適応判定加算
・生体腎移植術	・粒子線治療医学管理加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携による病理診断

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	30
剖 検 の 状 況	剖検症例数 19 例 ／ 剖検率 6.4 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
線維芽細胞が産生する新規液性因子の肝胆膵癌悪性化の機序解明と革新的治療の開発	調 憲	肝胆膵外科	4,030,000	補委	日本学術振興会
患者参加型医療推進と治療法決定プロセス改善に向けた組織的アプローチ	小松 康宏	医療の質・安全管理部	4,420,000	補委	日本学術振興会
圧負荷肥大心における脂肪酸の酸化と合成の統合的な調節機構の解明	倉林 正彦	循環器内科	13,260,000	補委	日本学術振興会
新規自己抗体標的抗原に着目した自己免疫関連生殖機能障害の病態解明と早期診断法確立	岩瀬 明	産科婦人科	7,150,000	補委	日本学術振興会
HPV関連癌の免疫病態解明とHPV特異的免疫療法の開発	近松 一郎	耳鼻咽喉科	3,770,000	補委	日本学術振興会
中高年者の運動療法が体組成と血中リパーゼに与える影響の解析	木村 孝穂	検査部	1,690,000	補委	日本学術振興会
転写共役活性化因子PDIP1による普遍的酸化ストレス調節能の検証と標的分子探索	佐藤 賢	消化器・肝臓内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
腸内フローラの破綻時の胆管障害における核内受容体CAR/PXRの役割	山崎 勇一	消化器・肝臓内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
非典型的肺動脈性肺高血圧症における脂肪酸代謝関連因子を用いた治療反応性の検討	高間 典明	循環器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンス及び電気生理学的手法を駆使した新規遺伝性不整脈の病態解明	中島 忠	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
脂肪酸組成バランスの不均衡と肝臓―肺連関による肺気腫進展の機序解明と新規治療戦略	横山 知行	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
肺癌においてWnt経路活性化により誘導されるLGR6の意義	砂長 則明	呼吸器・アレルギー内科	2,470,000	補委	日本学術振興会
腎尿細管上皮細胞の脂肪酸取り込みルートと分子メカニズムの解明	磯 達也	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
多発性内分泌腫瘍症1型におけるMEN1遺伝子のヘテロ接合性欠失機構の解明	小澤 厚志	内分泌糖尿病内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
革新的治療ツールを利用した癌微小管ダイナミクス制御による消化管癌の克服を目指して	宗田 真	消化管外科	1,690,000	補委	日本学術振興会

小計 15件

マウスモデルを用いた免疫チェックポイント阻害剤の新たな治療抵抗メカニズムの解明	河谷 菜津子	呼吸器外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
FOXMIを介した肺癌の抗癌剤耐性メカニズムの解明と耐性の克服	大瀧 容一	呼吸器外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
神経障害性疼痛における青斑核の機能変化と鎮痛薬の作用、副作用の関連の解明	須藤 貴史	麻酔科蘇生科	2,080,000	補委	日本学術振興会
アポトーシス経路をターゲットとした新規前立腺癌治療法の開発	新井 誠二	泌尿器科	2,600,000	補委	日本学術振興会
絨毛膜羊膜炎で上昇するアクチビンは何をしているのか - 胎児と胎盤への作用の解析	安部 由美子	産科婦人科	2,080,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌におけるPin1阻害による新規治療戦略	平川 隆史	産科婦人科	2,080,000	補委	日本学術振興会
セロトニン受容体別にみた一過性虚血状態での水平眼球運動系ニューロンの発火特性変化	紫野 正人	耳鼻咽喉科	1,560,000	補委	日本学術振興会
新型たばこの使用実態と妊娠予後 ―母子手帳アプリ(PHR)との関連性について―	篠崎 博光	産科婦人科	1,560,000	補委	日本学術振興会
死後MRIを加えた心臓の包括的検索と遺伝子解析による心臓突然死の死因究明システム	徳江 浩之	放射線部	1,170,000	補委	日本学術振興会
イオンビーム工学技術を応用した特発性肺線維症の病態解明	古賀 康彦	呼吸器・アレルギー内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
非定型口腔顔面痛における病態と三環系抗うつ薬治療の脳構造・機能的な作用機序の解明	田村 誠志	麻酔科蘇生科	2,340,000	補委	日本学術振興会
発生・分化に基づいたグリオーマ細胞の解析および特異的マーカーの開発	松村 望	病理部	1,300,000	補委	日本学術振興会
マウス腫瘍モデルを用いた抗PD-1抗体治療後の耐性化メカニズム解明	矢島 玲奈	乳腺・内分泌外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
消化管癌に対するリボソーム化microRNAを用いた革新的治療の開発	原 圭吾	消化管外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
癌関連線維芽細胞におけるサイトカイン制御因子を標的とした新規治療法の開発	塚越 真梨子	寄附講座・先端腫瘍免疫治療学講座	2,080,000	補委	日本学術振興会
肺癌に対する重粒子線治療の抗腫瘍免疫効果の解析	久保 亘輝	放射線科	2,210,000	補委	日本学術振興会
消化管癌に対するアミノ酸輸送蛋白の発現状況を用いた薬剤感受性予測の開発	小川 博臣	消化管外科	1,690,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

RRN3を標的とした肝胆膵癌の革新的治療開発に関する基礎的研究	石井 範洋	肝胆膵外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
PIP化合物による肝胆膵癌の微小管ダイナミックスを標的とした新規治療ツールの開発	渡辺 亮	MEサプライセンター	2,340,000	補委	日本学術振興会
心不全に対する炭素イオン線治療に関する基礎的研究	岡野 奈緒子	重粒子医学センター	910,000	補委	日本学術振興会
骨肉腫に対する重粒子線治療の生物学的効果に基づいた線量分布の作成と最適化	柴 慎太郎	重粒子医学センター	1,820,000	補委	日本学術振興会
Functional lumen Imaging法による食道運動障害の病態解明	保坂 浩子	消化器・肝臓内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
腎線維化の免疫学的メカニズムの解明	渡辺 光治	腎臓・リウマチ内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
制御性T細胞・Th17細胞バランスの制御による強皮症の線維化治療	関口 明子	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
転写因子SOX2による皮膚虚血再灌流障害(急性期褥瘡)における制御機構の解明	内山 明彦	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
肥満糖尿病モデルマウスにおける膵β細胞脱分化の成因とNAFLDとの膵肝連関	石田 恵美	内分泌糖尿病内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
SF-1を介した変異KCNJ5抑制による原発性アルドステロン症の治療開発	錦戸 彩加	内分泌糖尿病内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
注意欠陥多動性障害における内因性鎮痛機構の変化と痛みの慢性化機序の解明	鯉淵 郁也	麻酔科蘇生科	1,560,000	補委	日本学術振興会
in vitro検査を用いたアナフィラキシー原因物質の同定と発症メカニズムの特定	堀内 辰男	麻酔科蘇生科	2,080,000	補委	日本学術振興会
ノルアドレナリン作動性内因性鎮痛の変化がデュロキセチン鎮痛へ及ぼす影響を調べる	伊東 幸日子	麻酔科蘇生科	2,860,000	補委	日本学術振興会
薬理遺伝学を用いた中枢神経回路の選択的な神経活動制御と痛み修飾および高次機能解析	太田 浄	麻酔科蘇生科	1,690,000	補委	日本学術振興会
術前リハビリテーションにより術後高次脳機能障害(POCD)を予防できるか	高田 亮	集中治療部	1,820,000	補委	日本学術振興会
局所麻酔薬の注射可能な徐放製剤の作成と評価	松井 祐介	麻酔科蘇生科	1,690,000	補委	日本学術振興会
肥満細胞をターゲットとした周術期アナフィラキシーのメカニズムの解明	南雲 一洋	麻酔科蘇生科	1,950,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

オートファジーとアポトーシスの相乗効果に着目したスタチンの抗腫瘍効果の研究	宮澤 慶行	泌尿器科	1,170,000	補委	日本学術振興会
シングルセル解析を用いた頭頸部癌新規バイオマーカーとオーダーメイド医療の開発	高橋 秀行	耳鼻咽喉科	2,860,000	補委	日本学術振興会
左室駆出率の保たれた心不全(HFpEF)における眼循環の研究	篠原 洋一郎	眼科	910,000	補委	日本学術振興会
チロシンキナーゼFynがオートファジー活性を介してサルコペニアに与える影響の解明	佐々木 毅志	整形外科	2,600,000	補委	日本学術振興会
細胞接着分子に注目した胃癌進展機序解明と革新的治療戦略の構築	中澤 信博	消化管外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規抗炎症性物質ResolvinE3の気管支喘息に対する効果と作用機序の検討	佐藤 真季子	呼吸器・アレルギー内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
自己免疫性高トリグリセライド血症の病態解明と治療戦略の創出	村上 正巳	検査部	6,500,000	補委	日本学術振興会
高精細な病理診断と遺伝子解析を組み合わせた分類困難な脳腫瘍の層別化	横尾 英明	病理部	910,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンサーと連動させたTN乳癌のパネル診断と組織解析	小山 徹也	病理部	780,000	補委	日本学術振興会
転写伸長機構に着目したマイクロサテライトリピート伸長病の治療開発	池田 佳生	脳神経内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
統合失調症の脳局所／領域間ネットワーク病態についての機能的コネクトームMEG研究	武井 雄一	精神科神経科	1,430,000	補委	日本学術振興会
低酸素イメージング誘導high-LET炭素イオン線治療の開発に向けた基礎的検討	大野 達也	放射線科	1,690,000	補委	日本学術振興会
放射線照射後のDNA修復応答による免疫関連リガンド発現機構の解析	佐藤 浩央	重粒子医学センター	1,300,000	補委	日本学術振興会
Cu-64 PSMA-PETによる分化型甲状腺癌でのPSMA発現に関する研究	樋口 徹也	核医学科	1,300,000	補委	日本学術振興会
臨床応用を目指したトリプルネガティブ乳癌に対する分子標的RI内用療法の開発	勝又 奈津美	放射線部	1,300,000	補委	日本学術振興会
肺高血圧血管病変におけるユビキチン様修飾による平滑筋分化誘導機構の解明	小和瀬 桂子	救・総医療センター((総診)	1,040,000	補委	日本学術振興会
心筋ミトコンドリア/細胞質ATP可視化マウスによる心臓エナジェティクス解析	小板橋 紀通	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

食塩感受性高血圧における炎症シグナルとネプリライシンのリンパ管再構築に対する意義	中村 哲也	循環器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ポドサイト細胞生物学による特発性ネフローゼ症候群の鑑別診断法の確立	小林 靖子	小児科	1,040,000	補委	日本学術振興会
皮膚筋炎におけるI型インターフェロン発現上昇: LINE-1とウイルス感染の関与	清水 晶	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞の過活性化により誘発される耐糖能異常の免疫学的解析	金子 和光	腎臓・リウマチ内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
伸展刺激で得られる骨格筋細胞外小胞は新たな糖代謝改善薬になり得るか	齋藤 従道	内分泌糖尿病内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
甲状腺機能低下症モデルTRHKOマウスにおけるNASH/NAFLD発症機構の解明	中島 康代	内分泌糖尿病内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
肝筋相関からみたサルコペニアが肝再生に及ぼす影響の分子機序解明	新木 健一郎	肝胆膵外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
肝星細胞をターゲットとした新たな肝再生機序解明と革新的治療法の開発	播本 憲史	肝胆膵外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
消化管癌に対するイリノテカン療法の効果増強を目指した新たな治療法の開発	佐伯 浩司	消化管外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
グリシン作動性抑制系の術後慢性痛に及ぼす影響の解明	山田 真紀子	麻酔科蘇生科	780,000	補委	日本学術振興会
高齢ラットを用いた術後認知機能障害の分子生物学的解明とその治療法の確立	門井 雄司	手術部	1,170,000	補委	日本学術振興会
「認知性疼痛」病態/治療における脳の構造/機能ダイナミクス(横断・縦断研究)	荻野 祐一	麻酔科蘇生科	1,300,000	補委	日本学術振興会
包括的評価による反復性肩関節前方脱臼の病態解明ースポーツ復帰率を高めるためにー	設楽 仁	整形外科	780,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌に対するPARP阻害剤・スタチン・プラチナ製剤併用効果の基礎的研究	関根 芳岳	泌尿器科	1,170,000	補委	日本学術振興会
VR技術を用いた半側空間無視のリハビリテーション手法の開発	和田 直樹	リハビリテーション部	650,000	補委	日本学術振興会
マイクロ糸球体モデルによるタンパク透過性亢進の機序解明	池内 由果	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
脳腫瘍における高悪性度を示す新規疾患群の病態解明と疾患概念の確立	信澤 純人	病理部	2,080,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

非小細胞肺癌を対象としたオシメルチニブの効果予測因子に関するバイオマーカー解析	笠原 礼光	先端医療開発センター	1,820,000	補委	日本学術振興会
超解像顕微鏡をもちいた重粒子線クラスター損傷の修復動態予測アルゴリズム開発	尾池 貴洋	放射線科	1,300,000	補委	日本学術振興会
臨床病期I期非小細胞肺癌に対する重粒子線治療と体幹部定位放射線治療の費用効果分析	岡崎 祥平	重粒子医学センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
肺癌に対する粒子線の深吸気息止め照射の頑健性と有効な方法を探る	入江 大介	放射線科	2,080,000	補委	日本学術振興会
小児急性骨髄性白血病の分子病態と発症年齢に基づく新たなリスク層別化治療の構築	原 勇介	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
TGF- β による糸球体上皮細胞障害とWT1の発現低下機序について	浜谷 博子	腎臓・リウマチ内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
亜鉛欠乏による褥瘡発生機序の解明:なぜ亜鉛欠乏状態では褥瘡が発生しやすいのか?	上原 顕仁	皮膚科	1,430,000	補委	日本学術振興会
気管支喘息の新たな治療標的としてのプロトン感知性受容体TDAG8	鶴巻 寛朗	呼吸器・アレルギー内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
PPAR γ の新規転写共役因子SFPQ/PSFの脂肪細胞の分化における役割	土岐 明子	内分泌糖尿病内科	910,000	補委	日本学術振興会
甘味受容体を介するGLP-1分泌促進薬の開発にむけた検討	大津 義晃	小児科	780,000	補委	日本学術振興会
大動脈弁石灰化進行の分子生物学的メカニズムに着眼した大動脈弁狭窄抑制薬の開発	立石 渉	循環器外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
肺癌における直鎖状ユビキチン関連シグナルとEGFRシグナルのクロストーク	中澤 世識	呼吸器外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
スキンコンダクタンスモニターを用いた痛みの客観的評価	杉峰 里美	集中治療部	1,040,000	補委	日本学術振興会
周術期アナフィラキシーの診断精度向上と発生機序解明:好塩基球活性化試験を用いて	折原 雅紀	集中治療部	1,820,000	補委	日本学術振興会
乳房再建術の術後痛と生活の質に関する内因性鎮痛と脳機能相関/前向き観察研究	熊倉 みなみ	麻酔科蘇生科	1,300,000	補委	日本学術振興会
重症患者における安静時消費エネルギー推測式の新規作成	竹前 彰人	麻酔科蘇生科	2,080,000	補委	日本学術振興会
重症敗血症におけるAN69ST膜を使用したCHDFの有効性	大高 麻衣子	集中治療部	1,170,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

頭頸部癌の癌微小環境におけるエクソソームを介した細胞間コミュニケーションの解明	御任 一光	耳鼻咽喉科	1,300,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌における循環癌細胞のheterogeneityとその臨床意義の解析	井田 翔太	耳鼻咽喉科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヘルペスウイルス眼感染症におけるウイルススタイピングの解析	細貝 真弓	眼科	2,470,000	補委	日本学術振興会
CTLA4阻害剤による網膜色素上皮炎モデルの作製と病態メカニズムの解明	向井 亮	眼科	520,000	補委	日本学術振興会
内臓脂肪型肥満発症経路が関与する抗癌剤耐性機構の解明	喜名 美香	歯科口腔・顎顔面外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規子宮内膜症モデルと線維化セルリネッジによるドライバー変異発生機序の探索	岩瀬 明	産科婦人科	2,600,000	補委	日本学術振興会
臨床応用を目指した生体内における新規グルカゴン分泌制御機構の解明	須賀 孝慶	消化器・肝臓内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規エネルギー代謝マーカーとしてのリボ蛋白リパーゼ	常川 勝彦	検査部	1,560,000	補委	日本学術振興会
スフィンゴシン1リン酸とその受容体に着目した末梢血幹細胞動員の総合的理解	横濱 章彦	血液内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
早老症の皮膚硬化、脂肪萎縮の病態解明と新規治療法の開発を目指して	遠藤 雪恵	皮膚科	390,000	補委	日本学術振興会
カーボンナノチューブを利用した自己集合型・腫瘍特異的超音波造影剤の開発	対馬 義人	核医学科	1,170,000	補委	日本学術振興会
腎単核貪食細胞による腎尿細管間質障害機序の解明	廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
急性期褥瘡の病態解明と新規治療の開発:間葉系幹細胞由来エクソソームに着眼して	茂木 精一郎	皮膚科	910,000	補委	日本学術振興会
重症難治性喘息への挑戦 抗炎症性脂質メディエーターの作用解析から創薬へ向けた研究	久田 剛志	呼吸器・アレルギー内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
周術期アナフィラキシー確定診断法の開発:抗原特異的IgEと尿中マーカーの測定	高澤 知規	集中治療部	1,430,000	補委	日本学術振興会
局所麻酔徐放薬を用いた疼痛管理	戸部 賢	集中治療	1,040,000	補委	日本学術振興会
麻酔薬・鎮痛薬の神経発達に及ぼす影響の検討	麻生 知寿	麻酔科蘇生科	650,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

新たな血管収縮薬投与法の確立を目指した心肺停止状態におけるRAA系動態の解明	大嶋 清宏	救・総医療センター(救急)	910,000	補委	日本学術振興会
pH感受性G蛋白関連受容体OGR1の肺腎関連における役割の解明	池内 秀和	腎臓・リウマチ内科	650,000	補委	日本学術振興会
頭蓋咽頭腫における病理学的サブタイプと糖代謝に関する検討	登坂 雅彦	脳神経外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
抗サバイビン光抗体療法と重粒子免疫療法による抵抗性前立腺癌治療の基礎的研究	小池 秀和	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
循環不全モデルマウスにおける前庭小脳機能障害が前庭神経核に及ぼす影響の解明	高安 幸弘	耳鼻咽喉科	910,000	補委	日本学術振興会
イリジウム錯体を用いた脈絡毛細管板のりん光寿命マップ	秋山 英雄	眼科	520,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアに關与する新たな調節因子の解明	山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
重粒子線照射に対する細胞応答反応における二次的バイスタンダー効果の解析	神沼 拓也	放射線科	910,000	補委	日本学術振興会
全身性強皮症患者の消化管運動障害の病態解明	栗林 志行	光学医療診療部	390,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌、膵癌に対する新規Galectin-3阻害薬を用いた治療戦略	五十嵐 隆通	肝胆膵外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
神経障害性痛治療薬併用効果機序の解明ーガバペンチノイドの効果増強を目指してー	廣木 忠直	麻酔科蘇生科	1,430,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞及び培養上清を用いた新規重症熱傷治療法の開発	澤田 悠輔	救・総医療センター(救急)	1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔癌代謝リプログラミングを反映した新規PETバイオマーカーの探索	金 舞	歯科口腔・顎顔面外科	520,000	補委	日本学術振興会
地域高齢住民における血管機能と認知症およびフレイルの関連	大山 善昭	臨床試験部	260,000	補委	日本学術振興会
急性腎障害早期マーカーNGALとhANP早期投与の有用性	神山 彩	集中治療部	780,000	補委	日本学術振興会
StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後mFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	小川 博臣	消化管外科	11,000	補委	公益財団法人がん集学的治療研究財団

小計 16件

再発危険因子を有するハイリスクStageⅡ結腸がん治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法の至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	宗田 真	消化管外科	11,000	補 (委)	公益財団法人がん集学的治療研究財団
前立腺がん患者の診断時背景因子と初期治療および治療経過に関する実態調査研究	鈴木 和浩	泌尿器科	205,500	補 (委)	特定非営利活動法人J-CaP研究会
特発性間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	古賀 康彦	呼吸器・アレルギー内科	88,000	補 (委)	特定非営利活動法人North East Japan Study Group
がんと静脈血栓塞栓症の臨床研究:多施設共同前向き登録研究[研究略称名:VTE研究]	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	49,500	補 (委)	一般社団法人CSPOR-BC
分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果探索のためのコホート研究	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	33,000	補 (委)	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
婦人科悪性腫瘍患者の静脈血栓塞栓症に関する多施設共同前向き登録研究および単群検証的臨床試験	平川 隆史	産科婦人科	110,000	補 (委)	一般財団法人北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアム
婦人科悪性腫瘍患者の静脈血栓塞栓症に関する多施設共同前向き登録研究および単群検証的臨床試験	平川 隆史	産科婦人科	220,000	補 (委)	一般財団法人北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアム
閉経後ホルモン受容体陽性切除不能および転移・再発乳癌に対するバルボシクリブ療法の観察研究	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	20,000	補 (委)	一般社団法人CSPOR-BC
根治照射可能なⅢ期非小細胞肺癌でPS2あるいは高齢者に対する低用量カルボプラチン連日投与と胸部放射線同時併用療法後、デュルバルマブ維持療法の第Ⅱ相試験(NEJ039A)	三浦 陽介	呼吸器・アレルギー内科	152,778	補 (委)	特定非営利活動法人 North East Japan Study Group
脂肪酸の鎖長を基軸とした疾患の制御機構と医療展開に向けた基盤構築	倉林 正彦	循環器内科	9,880,000	補 (委)	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 10件

COVID-19 に関するレジストリ研究(ファビピラビル等の抗ウイルス薬が投与されたCOVID-19患者の背景因子と治療効果の検討(観察研究))	徳江 豊	感染制御部	300,000	補 委	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
COVID-19 に関するレジストリ研究(ファビピラビル等の抗ウイルス薬が投与されたCOVID-19患者の背景因子と治療効果の検討(観察研究))	徳江 豊	感染制御部	740,000	補 委	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
髄液中リゾリン脂質測定の客観的疼痛マーカーとしての臨床検査への導入検討	筑田 博隆	整形外科	3,000,000	補 委	国立大学 法人東京大学
神経発達障害の病因解明を目指したクロマチンの3次元構造解析	滝沢 琢己	小児科	7,800,000	補 委	国立大学 法人東京大学
超早期発症型炎症性腸疾患に対するシームレスな診断・治療・研究体制の構築	石毛 崇	小児科	100,000	補 委	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	池田 佳生	脳神経内科	800,000	補 委	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
洞不全症候群患者登録	中島 忠	循環器内科	130,000	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
真菌性角膜炎に対するリコナゾール点眼薬の製剤化(シーズA19-54)	戸所 大輔	眼科	1,800,000	補 委	国立大学 法人筑波大学
神経障害性疼痛治療薬の臨床評価ガイドラインのパブリックコメントの募集と完成	筑田 博隆	整形外科	195,000	補 委	学校法人 自治医科大学
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	近松 一郎	耳鼻咽喉科	260,000	補 委	独立行政法人国立 病院機構 東京医療センター
副作用自発報告の充実、リスク管理活動の効果と効率性の向上	中村 哲也	循環器内科	400,000	補 委	学校法人 北里研究所
早期発症型炎症性腸疾患レジストリの構築	石毛 崇	小児科	728,000	補 委	国立大学 法人東京医科歯科大学
小児ウイルス性肝炎患者の病態進展評価及び治療選択に関する研究開発	羽鳥 麗子	小児科	260,000	補 委	学校法人 近畿大学

小計 13件

劇症型NK白血病における独特なニッチの分子基盤解明とその制御法開発(分担課題名:Crispr/Cas9 in vivo screeningにおける網羅的次世代シーケンス解析)	半田 寛	血液内科	650,000	補 委	学校法人東海大学
データの提供及び利用に関する契約(イメージングデータを用いた皮膚がん診断ソリューション開発)	安田 正人	皮膚科	2,131,000	補 委	国立大学法人信州大学
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	茂木 精一郎	皮膚科	130,000	補 委	国立大学法人熊本大学
小児特有の脳腫瘍に対する標準治療確立のための全国多施設共同研究	信澤 純人	病理部	1,950,000	補 委	地方独立行政法人大阪市民病院機構

小計 4件

計 160件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Fujihara, K; Sato, T; Higeta, K; et al.	精神科神経科	Behavioral Consequences of a Combination of Gad1 Haplodeficiency and Adolescent Exposure to an NMDA Receptor Antagonist in Long-Evans Rats	FRONTIERS IN PHARMACOLOGY. 2021 MAR 30; 12: -	Original Article
2	Matsumoto, H; Hoshino, J; Mukai, R; et al.	眼科	Short-term outcomes of intravitreal brovacizumab for treatment-naive neovascular age- related macular degeneration with type 1 choroidal neovascularization including polypoidal choroidal vasculopathy	SCIENTIFIC REPORTS. 2021 MAR 24; 11: -	Original Article
3	Shiraishi, T; Ikeda, K; Tsukada, Y; et al.	消化管外科	High expression of TMEM180, a novel tumour marker, is associated with poor survival in stage III colorectal cancer	BMC CANCER. 2021 MAR 23; 21: -	Original Article
4	Uraoka, T; Yunoki, S; Sasaki, M; et al.	消化器・肝臓内科	Closure of gastric perforations during endoluminal resection using a novel biodegradable collagen sol: A feasibility survival study on porcine model (with video)	DIGESTIVE ENDOSCOPY. ; :-	Original Article
5	Fujii, T; Nakazawa, Y; Ogino, M; et al.	乳腺・内分泌外科	Oncological safety of immediate breast reconstruction with skin- or nipple- sparing mastectomy: the value of tumor- to-dermis distance measured by preoperative ultrasonography	WORLD JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY. 2021 MAR 12; 19: -	Original Article

小計 5件

6	Shitara, H; Tajika, T; Kuboi, T; et al.	整形外科	Ankle dorsiflexion deficit in the back leg is a risk factor for shoulder and elbow injuries in young baseball players	SCIENTIFIC REPORTS. 2021 MAR 9; 11: -	Original Article
7	Sano, A; Saito, K; Kuriyama, K; et al.	消化管外科	Risk Factors for Postoperative Liver Enzyme Elevation After Laparoscopic Gastrectomy for Gastric Cancer	IN VIVO. 2021 MAR-APR; 35: 1227-1234	Original Article
8	Miyasaka, Y; Okonogi, N; Fukahori, M; et al.	重粒子線医学研究センター	Pelvic insufficiency fractures following carbon-ion radiotherapy for uterine carcinomas	RADIOTHERAPY AND ONCOLOGY. 2021 MAR; 156: 56-61	Original Article
9	Shiba, S; Okamoto, M; Kiyohara, H; et al.	重粒子線医学研究センター	Impact of Carbon Ion Radiotherapy on Inoperable Bone Sarcoma	CANCERS. 2021 MAR; 13: -	Original Article
10	Takahashi, H; Rokudai, S; Kawabata- Iwakawa, R; et al.	耳鼻咽喉科	AKT3 Is a Novel Regulator of Cancer- Associated Fibroblasts in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	CANCERS. 2021 MAR; 13: -	Original Article
11	Ohtaki, Y; Shimizu, K; Suzuki, H; et al.	呼吸器外科	Salvage surgery for non-small cell lung cancer after tyrosine kinase inhibitor treatment	LUNG CANCER. 2021 MAR; 153: 108-116	Original Article
12	Okazaki, S; Shibuya, K; Shiba, S; et al.	重粒子線医学研究センター	Carbon ion radiotherapy for patients with hepatocellular carcinoma in the caudate lobe carbon ion radiotherapy for hepatocellular carcinoma in caudate lobe	HEPATOLOGY RESEARCH. 2021 MAR; 51: 303-312	Original Article
13	Sohda, M; Kuвано, H; Saeki, H; et al.	消化管外科	Nationwide survey of neuroendocrine carcinoma of the esophagus: a multicenter study conducted among institutions accredited by the Japan Esophageal Society	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2021 APR; 56: 350-359	Original Article

小計 8件

14	Yamada, E; Ishida, E; Nakajima, Y; et al.	内分泌糖尿病内科	The long-quarantined case of COVID-19 with prolonged viral shedding and intermittent fever for more than 70 days	FUTURE VIROLOGY. 2021 FEB; 16: 79-84	Original Article
15	Tada, H; Takahashi, H; Ida, S; et al.	耳鼻咽喉科	The Blood Microenvironment Influences the Molecular Phenotypes of Circulating Tumor Cells in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH. 2021 FEB; 41: 885-893	Original Article
16	Nakazawa, S; Hanawa, R; Nagashima, T; et al.	呼吸器外科	Segmentectomy Guided by 3-Dimensional Images Reconstructed From Nonenhanced Computed Tomographic Data	ANNALS OF THORACIC SURGERY. 2021 FEB; 111: E301-E304	Original Article
17	Yamaguchi, R; Tosaka, M; Miyagishima, T; et al.	脳神経外科	Sagittal bending of the optic nerve at the entrance from the intracranial to the optic canal and ipsilateral visual acuity in patients with sellar and suprasellar lesions	JOURNAL OF NEUROSURGERY. 2021 FEB; 134: 180-188	Original Article
18	Okamoto, M; Shiba, S; Okazaki, S; et al.	放射線科	Feasibility and Safety of Repeated Carbon Ion Radiotherapy for Locally Advanced Unresectable Pancreatic Cancer	CANCERS. 2021 FEB; 13: -	Original Article
19	Katayama, A; Miligy, IM; Shiino, S; et al.	病理診断学	Predictors of pathological complete response to neoadjuvant treatment and changes to post-neoadjuvant HER2 status in HER2-positive invasive breast cancer	MODERN PATHOLOGY. 2021 JUL; 34: 1271-1281	Original Article
20	Matsumoto, H; Mukai, R; Hoshino, J; et al.	眼科	Choroidal congestion mouse model: Could it serve as a pachychoroid model?	PLOS ONE. 2021 JAN 28; 16: -	Original Article

小計 7件

21	Oike, T; Uchihara, Y; Permata, TBM; et al.	放射線科	Quantitative volumetric analysis of the Golgi apparatus following X-ray irradiation by super- resolution 3D-SIM microscopy	MEDICAL MOLECULAR MORPHOLOGY. 2021 JUN; 54: 166-172	Original Article
22	Nakajima, T; Dharmawan, T; Kawabata- Iwakawa, R; et al.	循環器内科	Reduced current density, partially rescued by mexiletine, and depolarizing shift in activation of SCN5A W374G channels as a cause of severe form of Brugada syndrome	ANNALS OF NONINVASIVE ELECTROCARDIOLOGY . 2021 MAY; 26: -	Original Article
23	Takagi, Y; Miura, K; Yabuuchi, T; et al.	小児科	Any modality of renal replacement therapy can be a treatment option for Joubert syndrome	SCIENTIFIC REPORTS. 2021 JAN 11; 11: -	Original Article
24	Shitara, H; Tajika, T; Kuboi, T; et al.	整形外科	High baseball loads induce shoulder and elbow injuries among high school baseball pitchers: a prospective study	SCIENTIFIC REPORTS. 2021 JAN 11; 11: -	Original Article
25	Matsumura, N; Goda, N; Yashige, K; et al.	病態病理学	Desmoplastic myxoid tumor, SMARCB1- mutant: a new variant of SMARCB1- deficient tumor of the central nervous system preferentially arising in the pineal region	VIRCHOWS ARCHIV. ; : -	Original Article
26	Horiuchi, T; Takazawa, T; Orihara, M; et al.	麻酔神経科学	Drug-induced anaphylaxis during general anesthesia in 14 tertiary hospitals in Japan: a retrospective, multicenter, observational study	JOURNAL OF ANESTHESIA. 2021 FEB; 35: 154-160	Original Article
27	Kim, M; Dam, TT; Ogawa, M; et al.	歯科口腔・顎顔面外科	Predictive factors for dental inflammation with exacerbation during cancer therapy with FDG-PET/CT imaging	SUPPORTIVE CARE IN CANCER. 2021 AUG; 29: 4277-4284	Original Article

小計 7件

28	Matsumoto, S; Yamada, E; Nakajima, Y; et al.	内分泌糖尿病内科	Late-onset non-islet cell tumor hypoglycemia: A case report	WORLD JOURNAL OF CLINICAL CASES. 2021 JAN 6; 9: 163-169	Original Article
29	Tsunekawa, K; Matsumoto, R; Ushiki, K; et al.	検査部	Significance of serum branched-chain amino acid to tyrosine ratio measurement in athletes with high skeletal muscle mass	BMC SPORTS SCIENCE MEDICINE AND REHABILITATION. 2021 JAN 4; 13: -	Original Article
30	Miyazawa, Y; Yokohama, A; Ishizaki, T; et al.	血液内科	Pathological and molecular analysis of a composite lymphoma of mantle cell lymphoma and Epstein-Barr virus-positive follicular lymphoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY. 2021 APR; 113: 592-599	Original Article
31	Matsumoto, S; Okada, J; Yamada, E; et al.	内分泌糖尿病内科	Overexpressed exocyst complex component 3-like 1 spontaneously induces apoptosis	BIOMEDICAL RESEARCH-TOKYO. 2021 ; 42: 109-113	Original Article
32	Sohda, M; Miyazaki, T; Watanabe, T; et al.	消化管外科	Utility of Thermography of Reconstructed Gastric Conduit for Predicting Postoperative Anastomotic Leakage After Esophagectomy for Esophageal Cancer	ANTICANCER RESEARCH. 2021 JAN; 41: 453-458	Original Article
33	Miyasaka, Y; Komatsu, S; Abe, T; et al.	重粒子線医学研究センター	Comparison of Oncologic Outcomes between Carbon Ion Radiotherapy and Stereotactic Body Radiotherapy for Early-Stage Non-Small Cell Lung Cancer	CANCERS. 2021 JAN; 13: -	Original Article
34	Miyazawa, Y; Sekine, Y; Arai, S; et al.	泌尿器科学	Prognostic Factors in Hormone-sensitive Prostate Cancer Patients Treated With Combined Androgen Blockade: A Consecutive 15-year Study at a Single Japanese Institute	IN VIVO. 2021 JAN-FEB; 35: 373-384	Original Article

小計 7件

35	Sakai, M; Sohda, M; Saito, H; et al.	消化管外科	Impact of combined assessment of systemic inflammation and presarcopenia on survival for surgically resected esophageal cancer	AMERICAN JOURNAL OF SURGERY. 2021 JAN; 221: 149-154	Original Article
36	Mukai, R; Matsumoto, H; Miyakubo, T; et al.	眼科	REDUCED VASCULAR DENSITY IN THE CHOROID AFTER TREATMENT WITH PHOTODYNAMIC THERAPY COMBINED WITH AFLIBERCEPT IN PATIENTS WITH POLYPOIDAL CHOROIDAL VASCULOPATHY	RETINA-THE JOURNAL OF RETINAL AND VITREOUS DISEASES. 2021 JAN; 41: 156-161	Original Article
37	Suzuki, K; Kurihara, J; Kim, M; et al.	歯科口腔・顎顔面外科	Image screening for maxillo-mandibular actinomycosis with CT, F-18-FDG-PET/CT, and F-18-alpha-methyl tyrosine PET/CT	ORAL RADIOLOGY. 2021 JAN; 37: 46-54	Original Article
38	Sohda, M; Saeki, H; Kuwano, H; et al.	消化管外科	Clinical features of idiopathic esophageal perforation compared with typical post-emetic type: a newly proposed subtype in Boerhaave's syndrome	ESOPHAGUS. 2021 JUL; 18: 663-668	Original Article
39	Fujihara, K; Sato, T; Miyasaka, Y; et al.	精神科神経科	Genetic deletion of the 67-kDa isoform of glutamate decarboxylase alters conditioned fear behavior in rats	FEBS OPEN BIO. 2021 FEB; 11: 340-353	Original Article
40	Yanagisawa, K; Wichukchinda, N; Tsuchiya, N; et al.	感染制御部	Deficiency of mannose-binding lectin is a risk of Pneumocystis jirovecii pneumonia in a natural history cohort of people living with HIV/AIDS in Northern Thailand	PLOS ONE. 2020 DEC 23; 15: -	Original Article

小計 6件

41	Shitara, H; Tajika, T; Kuboi, T; et al.	整形外科	A small number of daily pitches induces shoulder and elbow injuries among high school baseball pitchers: a prospective study	SCIENTIFIC REPORTS. 2020 DEC 15; 10: -	Original Article
42	Tada, H; Takahashi, H; Kawabata- Iwakawa, R; et al.	耳鼻咽喉科	Molecular phenotypes of circulating tumor cells and efficacy of nivolumab treatment in patients with head and neck squamous cell carcinoma	SCIENTIFIC REPORTS. 2020 DEC 9; 10: -	Original Article
43	Fujihara, K; Yamada, K; Ichitani, Y; et al.	精神科神経科	CRISPR/Cas9- engineered Gad1 elimination in rats leads to complex behavioral changes: implications for schizophrenia	TRANSLATIONAL PSYCHIATRY. 2020 DEC 8; 10: -	Original Article
44	Yagi, H; Sato, K; Arakawa, N; et al.	小児科	Expression of Leucine-rich Repeat- containing Protein 32 Following Lymphocyte Stimulation in Patients with Non- IgE-mediated Gastrointestinal Food Allergies	YALE JOURNAL OF BIOLOGY AND MEDICINE. 2020 DEC; 93: 645-655	Original Article
45	Nakazawa, S; Yajima, T; Shirabe, K	呼吸器外科	Changing and Unchanging Trends for an Old Disease	CHEST. 2020 DEC; 158: 2701-2701	Letter
46	Oike, T; Hirota, Y; Darwis, NDM; et al.	重粒子線医学研究センター	Comparison of Clonogenic Survival Data Obtained by Pre- and Post- Irradiation Methods	JOURNAL OF PERSONALIZED MEDICINE. 2020 DEC; 10: -	Original Article
47	Yoshida, A; Kimura, T; Tsunekawa, K; et al.	医学教育センター	Glucomannan Inhibits Rice Gruel-Induced Increases in Plasma Glucose and Insulin Levels	ANNALS OF NUTRITION AND METABOLISM. 2020 DEC; 76: 259-267	Original Article
48	Tashiro, M; Souda, H; Yoshida, T; et al.	重粒子線医学研究センター	Reconstruction of dose distributions for fine carbon-ion beams using iterative approximation toward carbon-knife	PHYSICS IN MEDICINE AND BIOLOGY. 2020 NOV 21; 65: -	Original Article

小計 8件

49	Motegi, S; Takemoto, M; Taniguchi, T; et al.	皮膚科	Management guideline for Werner syndrome 2020. 7. Skin ulcer associated with Werner syndrome dermatological treatment	GERIATRICS & GERONTOLOGY INTERNATIONAL. 2021 FEB; 21: 160-162	Original Article
50	Uchiyama, A; Kishi, C; Kuriyama, Y; et al.	皮膚科	A case of coexisting Bowen's disease and cutaneous pseudolymphoma	EUROPEAN JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 NOV; 30: 744-746	Letter
51	Oike, T; Komatsu, S; Komatsu, Y; et al.	重粒子線医学研究センター	Reporting of methodologies used for clonogenic assays to determine radiosensitivity	JOURNAL OF RADIATION RESEARCH. 2020 NOV; 61: 828-831	Original Article
52	Shimizu, T; Aihara, M; Yamaguchi, R; et al.	脳神経外科	In Reply to the Letter to the Editor Regarding Large Craniotomy Increases the Risk of Minor Perioperative Complications in Revascularization Surgery for Moyamoya Disease	WORLD NEUROSURGERY. 2020 NOV; 143: 584-584	Letter
53	Kaneko, Y; Nakajima, T; Tamura, S; et al.	循環器内科	Superior-Type Fast-Slow Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia Phenotype Mimicking the Slow-Fast Type	CIRCULATION-ARRHYTHMIA AND ELECTROPHYSIOLOGY. 2020 NOV; 13: -	Original Article
54	Musha, A; Shimada, H; Kubo, N; et al.	重粒子線医学研究センター	Evaluation of Carbon Ion Radiation-Induced Trismus in Head and Neck Tumors Using Dose-Volume Histograms	CANCERS. 2020 NOV; 12: -	Original Article
55	Ogino, M; Fujii, T; Nakazawa, Y; et al.	乳腺・内分泌外科	Implications of Topoisomerase (TOP1 and TOP2 alpha) Expression in Patients With Breast Cancer	IN VIVO. 2020 NOV-DEC; 34: 3483-3487	Original Article
56	Tsushima, Y; Seki, Y; Nakajima, T; et al.	放射線診断核医学	The effect of abolishing instructions to fast prior to contrast-enhanced CT on the incidence of acute adverse reactions	INSIGHTS INTO IMAGING. 2020 OCT 23; 11: -	Original Article

小計 8件

57	Makiguchi, T; Yamaguchi, T; Nakamura, H; et al.	形成外科	Evaluation of overall and disease-free survival in patients with free flaps for oral cancer resection	MICROSURGERY. 2020 NOV; 40: 859-867	Original Article
58	Uraoka, T; Yunoki, S; Kinoshita, S; et al.	消化器・肝臓内科	Novel temperature-responsive, biodegradable and injectable collagen sol for the endoscopic closure of colonic perforation holes: Animal study (with videos)	DIGESTIVE ENDOSCOPY. 2021 MAY; 33: 616-620	Original Article
59	Handa, H; Honma, K; Oda, T; et al.	血液内科	Long Noncoding RNA PVT1 Is Regulated by Bromodomain Protein BRD4 in Multiple Myeloma and Is Associated with Disease Progression	INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES. 2020 OCT; 21: -	Original Article
60	Shiba, S; Wakatsuki, M; Ohno, T; et al.	重粒子線医学研究センター	Differences in Linear Energy Transfer Affect Cell-killing and Radiosensitizing Effects of Spread-out Carbon-ion Beams	ANTICANCER RESEARCH. 2020 OCT; 40: 5497-5502	Original Article
61	Kasahara, N; Sunaga, N; Kuwako, T; et al.	先端医療開発センター	Administration of docetaxel plus ramucirumab with primary prophylactic pegylated-granulocyte colony-stimulating factor for pretreated non-small cell lung cancer: a phase II study	SUPPORTIVE CARE IN CANCER. 2020 OCT; 28: 4825-4831	Original Article
62	Watanabe, A; Harimoto, N; Kogure, K; et al.	肝胆膵外科	Author response to: Comment on: Right hepatic venous system variation in living donors: a three-dimensional CT analysis	BRITISH JOURNAL OF SURGERY. 2020 DEC; 107: E653-E653	Letter
63	Fujii, T; Ichiba, K; Honda, C; et al.	乳腺・内分泌外科	Prospective observational study of chemotherapy-induced alopecia after sequential FEC plus taxane and the effects of age in breast cancer patients	BREAST CANCER. 2021 MAR; 28: 329-334	Original Article

小計 7件

64	Kuribayashi, S; Kuwano, H; Uraoka, T	光学医療診療部	Possible causes of a focal esophageal muscle defect	DIGESTIVE ENDOSCOPY. 2020 NOV; 32: 1116-1116	Letter
65	Watanabe, A; Harimoto, N; Kogure, K; et al.	肝胆膵外科	Author response to: Comment on: Right hepatic venous system variation in living donors: a three-dimensional CT analysis	BRITISH JOURNAL OF SURGERY. 2020 NOV; 107: E608-E608	Letter
66	Sekiguchi, A; Endo, Y; Yamazaki, S; et al.	皮膚科	Plasma homocysteine levels are positively associated with interstitial lung disease in dermatomyositis patients with anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibody	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2021 JAN; 48: 34-41	Original Article
67	Tatsuki, M; Hatori, R; Nakazawa, T; et al.	地域医療研究・教育センター (小児科)	Serological cytokine signature in paediatric patients with inflammatory bowel disease impacts diagnosis	SCIENTIFIC REPORTS. 2020 SEP 3; 10: -	Original Article
68	Nakajima, T; Kawabata-Iwakawa, R; Kaneko, Y; et al.	循環器内科	Novel Cardiac cerebral Channelopathy Associated with a KCND3 V392I Mutation	INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 2020 SEP; 61: 1049-1055	Original Article
69	Fujii, T; Hirakata, T; Kurozumi, S; et al.	乳腺・内分泌外科	VEGF-A Is Associated With the Degree of TILs and PD-L1 Expression in Primary Breast Cancer	IN VIVO. 2020 SEP-OCT; 34: 2641-2646	Original Article
70	Shimizu, T; Aihara, M; Yamaguchi, R; et al.	脳神経外科	Large Craniotomy Increases the Risk of Minor Perioperative Complications in Revascularization Surgery for Moyamoya Disease	WORLD NEUROSURGERY. 2020 SEP; 141: E498-E507	Original Article
71	Mukai, R; Matsumoto, H; Akiyama, H	眼科	Surgical outcomes of vitrectomy for intractable diabetic macular edema	GRAEFES ARCHIVE FOR CLINICAL AND EXPERIMENTAL OPHTHALMOLOGY. 2021 FEB; 259: 363-368	Original Article

72	Tobe, M; Saito, S	集中治療部	Analogy between classical Yoga/Zen breathing and modern clinical respiratory therapy	JOURNAL OF ANESTHESIA. 2020 DEC; 34: 944-949	Review
73	Kubo, N; Kubota, Y; Oike, T; et al.	放射線科	Skin Dose Reduction by Layer-Stacking Irradiation in Carbon Ion Radiotherapy for Parotid Tumors	FRONTIERS IN ONCOLOGY. 2020 AUG 14; 10: -	Original Article
74	Shiba, S; Shibuya, K; Okamoto, M; et al.	重粒子線医学研究センター	Clinical impact of Hypofractionated carbon ion radiotherapy on locally advanced hepatocellular carcinoma	RADIATION ONCOLOGY. 2020 AUG 14; 15: -	Original Article
75	Harimoto, N; Araki, K; Hoshino, K; et al.	肝胆膵外科	Diffusion-Weighted MRI Predicts Lymph Node Metastasis and Tumor Aggressiveness in Resectable Pancreatic Neuroendocrine Tumors	WORLD JOURNAL OF SURGERY. 2020 DEC; 44: 4136-4141	Original Article
76	Kato, T; Takama, N; Harada, T; et al.	循環器内科	A case of hemolysis after mitral valve repair: evaluation of hydrodynamic patterns by three-dimensional transesophageal echocardiography	JOURNAL OF MEDICAL ULTRASONICS. 2020 OCT; 47: 645-647	Original Article
77	Suzuki, K; Takazawa, T; Saito, S	集中治療部	History of the development of antagonists for neuromuscular blocking agents	JOURNAL OF ANESTHESIA. 2020 OCT; 34: 723-728	Original Article
78	Tosaka, M	脳神経外科	Double-crescent sign and superficial subarachnoid CSF space expansion	JOURNAL OF NEUROSURGERY. 2020 AUG; 133: 607-608	Letter
79	Yasuda, M; Sekiguchi, A; Kishi, C; et al.	皮膚科	Immunohistochemical analysis of rhododendrol-induced leukoderma in improved and aggravated cases	JOURNAL OF DERMATOLOGICAL SCIENCE. 2020 AUG; 99: 140-143	Letter

小計 8件

80	Harimoto, N; Araki, K; Ishii, N; et al.	肝胆膵外科	Predictors of Postoperative Ascites After Hepatic Resection in Patients With Hepatocellular Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH. 2020 AUG; 40: 4343-4349	Original Article
81	Harimoto, N; Muranushi, R; Hoshino, K; et al.	肝胆膵外科	Albumin-Indocyanine Green Evaluation (ALICE) grade predicts bile leakage after hepatic resection	SURGERY TODAY. 2020 AUG; 50: 849-854	Original Article
82	Igarashi, T; Harimoto, N; Matsui, Y; et al.	肝胆膵外科	Association between intraoperative and postoperative epidural or intravenous patient- controlled analgesia and pancreatic fistula after distal pancreatectomy	SURGERY TODAY. 2021 FEB; 51: 276-284	Original Article
83	Motegi, S; Sekiguchi, A; Ikeuchi, H; et al.	皮膚科	Clinical features of anti-transcription intermediary factor 1 gamma (TIF1 gamma)-positive dermatomyositis with internal malignancy and investigation of the involvement of TIF1 gamma expression in tumors in the pathogenesis of cancer-associated dermatomyositis	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 DEC; 47: 1395-1402	Original Article
84	Yokohama, A; Okuyama, Y; Ueda, Y; et al.	輸血部	Differences among hemoglobin thresholds for red blood cell transfusions in patients with hematological diseases in teaching hospitals: a real world data in Japan	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY. 2020 OCT; 112: 535-543	Original Article
85	Endo, Y; Oka, A; Uehara, A; et al.	皮膚科	Fatal case of toxic epidermal necrolysis due to apalutamide used as a novel prostate cancer drug	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 OCT; 47: E359-E360	Letter

小計 6件

86	Sugimine, S; Saito, S; Takazawa, T	集中治療部	Normalized skin conductance level could differentiate physical pain stimuli from other sympathetic stimuli	SCIENTIFIC REPORTS. 2020 JUL 2; 10: -	Original Article
87	Orihara, M; Nagumo, K; Takazawa, T	集中治療部	Does sugammadex have multiple mechanisms for causing anaphylaxis?	JOURNAL OF ALLERGY AND CLINICAL IMMUNOLOGY-IN PRACTICE. 2020 JUL-AUG; 8: 2457-2458	Letter
88	Fujii, T; Tokuda, S; Nakazawa, Y; et al.	乳腺・内分泌外科	Implications of Low Serum Albumin as a Prognostic Factor of Long-term Outcomes in Patients With Breast Cancer	IN VIVO. 2020 JUL-AUG; 34: 2033-2036	Original Article
89	Kubo, N; Araki, K; Harimoto, N; et al.	肝胆膵外科	Hepatic resection for the right hepatic vein drainage area with indocyanine green fluorescent imaging navigation	JOURNAL OF HEPATO-BILIARY-PANCREATIC SCIENCES. 2020 JUL; 27: 371-379	Original Article
90	Araki, K; Harimoto, N; Yamanaka, T; et al.	肝胆膵外科	Efficiency of regional functional liver volume assessment using Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging for hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombus	SURGERY TODAY. 2020 NOV; 50: 1496-1506	Original Article
91	Saeki, H; Sohda, M; Sakai, M; et al.	消化管外科	Role of surgery in multidisciplinary treatment strategies for locally advanced esophageal squamous cell carcinoma	ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY. 2020 SEP; 4: 490-497	Review
92	Shiraishi, T; Nishizawa, Y; Ikeda, K; et al.	消化管外科	Risk factors for parastomal hernia of loop stoma and relationships with other stoma complications in laparoscopic surgery era	BMC SURGERY. 2020 JUN 22; 20: -	Original Article

小計 7件

93	Kawashima, M; Matsumura, A; Souda, H; et al.	重粒子線医学研究センター	Simultaneous determination of the dose and linear energy transfer (LET) of carbon-ion beams using radiochromic films	PHYSICS IN MEDICINE AND BIOLOGY. 2020 JUN 21; 65: -	Original Article
94	Tokue, H; Tokue, A; Tsushima, Y; et al.	放射線部	Safety and Efficacy of Aortic Vs Internal Iliac Balloon Occlusion for Cesarean Delivery in Coexisting Placenta Accreta and Placenta Previa	CARDIOVASCULAR AND INTERVENTIONAL RADIOLOGY. 2020 SEP; 43: 1277-1284	Original Article
95	Kubo, N; Yokobori, T; Takahashi, R; et al.	肝胆膵外科	An abdominal spacer that does not require surgical removal and allows drainage of abdominal fluids in patients undergoing carbon ion radiotherapy	PLOS ONE. 2020 JUN 10; 15: -	Original Article
96	Kasahara, N; Imai, H; Naruse, I; et al.	先端医療開発センター	Glasgow prognostic score predicts efficacy and prognosis in patients with advanced non-small cell lung cancer receiving EGFR-TKI treatment	THORACIC CANCER. 2020 AUG; 11: 2188-2195	Original Article
97	Arai, S; Varkaris, A; Nouri, M; et al.	泌尿器科	MARCH5 mediates NOXA-dependent MCL1 degradation driven by kinase inhibitors and integrated stress response activation	ELIFE. 2020 JUN 2; 9: -	Original Article
98	Nakajima, T; Dharmawan, T; Kawabata-Iwakawa, R; et al.	循環器内科	Biophysical defects of an SCN5A V1667I mutation associated with epinephrine-induced marked QT prolongation	JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY. 2020 AUG; 31: 2107-2115	Original Article
99	Tada, H; Takahashi, H; Ida, S; et al.	耳鼻咽喉科	Epithelial-Mesenchymal Transition Status of Circulating Tumor Cells Is Associated With Tumor Relapse in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH. 2020 JUN; 40: 3559-3564	Original Article

小計 7件

100	Orihara, M; Takazawa, T; Nagumo, K; et al.	集中治療部	Interpreting the results of early skin tests after perioperative anaphylaxis requires special attention: a case report and review of literature	JOURNAL OF ANESTHESIA. 2020 AUG; 34: 624-629	Review
101	Sekiguchi, A; Inoue, Y; Yamazaki, S; et al.	皮膚科	Demographic and clinical characteristics of cytomegalovirus reactivation in dermatomyositis	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 AUG; 47: 876-881	Original Article
102	Shiba, S; Parajuli, RK; Sakai, M; et al.	重粒子線医学研究センター	Use of a Si/CdTe Compton Camera for In vivo Real-Time Monitoring of Annihilation Gamma Rays Generated by Carbon Ion Beam Irradiation	FRONTIERS IN ONCOLOGY. 2020 MAY 19; 10: -	Original Article
103	Sekiguchi, A; Inoue, Y; Yamazaki, S; et al.	皮膚科	Prevalence and clinical characteristics of earlobe crease in systemic sclerosis: Possible association with vascular dysfunction	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 AUG; 47: 870-875	Original Article
104	Sohda, M; Kuwano, H; Sakai, M; et al.	消化管外科	A national survey on esophageal perforation: study of cases at accredited institutions by the Japanese Esophagus Society	ESOPHAGUS. 2020 JUL; 17: 230-238	Original Article
105	Sekiguchi, A; Ishikawa, O; Motegi, S	皮膚科	Case of zinc deficiency-induced dermatomyositis-like dermatitis: Association between absence of CD1a-positive Langerhans cells and development of dermatitis	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 AUG; 47: E286-E288	Letter
106	Sakai, M; Parajuli, RK; Kubota, Y; et al.	重粒子線医学研究センター	Crosstalk Reduction Using a Dual Energy Window Scatter Correction in Compton Imaging	SENSORS. 2020 MAY; 20: -	Original Article

107	Fujii, T; Tokuda, S; Nakazawa, Y; et al.	乳腺・内分泌外科	Relationship Between FDG Uptake and the Platelet/lymphocyte Ratio in Patients With Breast Invasive Ductal Cancer	IN VIVO. 2020 MAY-JUN; 34: 1365-1369	Original Article
108	Yasuda, M; Shimizu, A; Tamura, A; et al.	皮膚科	Atypical Hidradenitis Suppurativa on the Leg in a Psoriatic Patient	INDIAN JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 MAY-JUN; 65: 231-+	Letter
109	Tamura, S; Nakajima, T; Iizuka, T; et al.	循環器内科	Unique electrophysiological properties of fast- slow atrioventricular nodal reentrant tachycardia characterized by a shortening of retrograde conduction time via a slow pathway manifested during atrial induction	JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY. 2020 JUN; 31: 1420-1429	Original Article
110	Endo, Y; Sekiguchi, A; Motegi, S; et al.	皮膚科	Subcutaneous granuloma annulare on the heel: A case report and review of the Japanese published work	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 JUN; 47: 677-679	Review
111	Matsumura, N; Natsume, A; Maeda, S; et al.	病態病理学	Malignant transformation of a dysembryoplastic neuroepithelial tumor verified by a shared copy number gain of the tyrosine kinase domain of FGFR1	BRAIN TUMOR PATHOLOGY. 2020 APR; 37: 69-75	Original Article
112	Sato, H; Okonogi, N; Nakano, T	重粒子線医学研究センター	Rationale of combination of anti- PD-1/PD-L1 antibody therapy and radiotherapy for cancer treatment	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY. 2020 MAY; 25: 801-809	Review
113	Abe, T; Yamamoto, H; Miyata, H; et al.	循環器外科	Patient trends and outcomes of surgery for type A acute aortic dissection in Japan: an analysis of more than 10 000 patients from the Japan Cardiovascular Surgery Database	EUROPEAN JOURNAL OF CARDIO-THORACIC SURGERY. 2020 APR; 57: 660-667	Original Article

114	Watanabe, A; Harimoto, N; Araki, K; et al.	肝胆膵外科	D-Dimer Could Be a Surrogate Postoperative Prognostic Marker of Resectable Pancreatic Cancer	PANCREAS. 2020 APR; 49: E36-E38	Letter
115	Nakazawa, Y; Nakazawa, S; Kurozumi, S; et al.	乳腺・内分泌外科	The pathological complete response and secreted protein acidic and rich in cysteine expression in patients with breast cancer receiving neoadjuvant nab-paclitaxel chemotherapy	ONCOLOGY LETTERS. 2020 APR; 19: 2705-2712	Original Article
116	Yagi, H; Takizawa, T; Sato, K; et al.	小児科	Interleukin 2 receptor- α expression after lymphocyte stimulation for nonIgE-mediated gastrointestinal food allergies	ALLERGOLOGY INTERNATIONAL. 2020 APR; 69: 287-289	Letter
117	Igarashi, T; Shimizu, K; Usui, K; et al.	肝胆膵外科	Significance of RAS mutations in pulmonary metastases of patients with colorectal cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY. 2020 APR; 25: 641-650	Original Article
118	Ogawa, Y; Yanagisawa, K; Naito, C; et al.	血液内科	Overshoot of FVIII activity in patients with acquired hemophilia A who achieve complete remission	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY. 2020 APR; 111: 544-549	Original Article
119	Tsushima, Y; Hirasawa, H; Wakabayashi, Y; et al.	放射線診断核医学	Possible solution for the problem of unread image interpretation reports: the Gunma University Star Search	JAPANESE JOURNAL OF RADIOLOGY. 2020 JUL; 38: 643-648	Original Article
120	Ogawa, H; Kaira, K; Motegi, Y; et al.	消化管外科	Prognostic significance of beta 2-adrenergic receptor expression in patients with surgically resected colorectal cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY. 2020 JUN; 25: 1137-1144	Original Article

小計 7件

121	Sakai, M; Sohda, M; Saito, H; et al.	消化管外科	Comparative Analysis of Immunoinflammatory and Nutritional Measures in Surgically Resected Esophageal Cancer: A Single-center Retrospective Study	IN VIVO. 2020 MAR-APR; 34: 881-887	Original Article
122	Fujii, T; Tokuda, S; Nakazawa, Y; et al.	乳腺・内分泌外科	Eribulin Suppresses New Metastases in Patients With Metastatic Breast Cancer	IN VIVO. 2020 MAR-APR; 34: 917-921	Original Article
123	Shimizu, A; Toyoda, A; Motegi, S; et al.	皮膚科	First Japanese case of trichoepithelioma papulosum multiplex successfully treated with sirolimus gel	JOURNAL OF DERMATOLOGY. 2020 MAY; 47: E197-E198	Letter
124	Ohta, J; Kadoi, Y; Murooka, Y; et al.	麻酔科蘇生科	Hemodynamically adjusted infrahepatic inferior vena cava clamping can reduce postoperative deterioration in renal function: a retrospective observational study	JOURNAL OF ANESTHESIA. 2020 JUN; 34: 320-329	Original Article
125	Makiguchi, T; Yamaguchi, T; Nakamura, H; et al.	形成外科	Impact of skeletal muscle mass on postoperative delirium in patients undergoing free flap repair after oral cancer resection	JOURNAL OF PLASTIC SURGERY AND HAND SURGERY. 2020 JUN 1; 54: 161-166	Original Article
126	Yamada, M; Okada, S; Oda, H; et al.	内分泌糖尿病内科	Evaluation of the relationship between glycated hemoglobin A1c and mean glucose levels derived from the professional continuous flash glucose monitoring system	ENDOCRINE JOURNAL. 2020 ; 67: 531-536	Original Article

小計 6件

計 126件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 手順書の主な内容 ○ 病院長の責務，臨床研究審査委員会の業務内容，臨床研究の申請・依頼等の受付方法，責任医師及び分担医師等の業務内容，他の研究機関から IRB 審査依頼があった場合の対応	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 規定の主な内容 ○ 「国立大学法人群馬大学利益相反マネジメント規程」 利益相反マネジメント対象の範囲，利益相反マネジメントの対象，利益相反マネジメントのための調査，利益相反申告書等の保存，学外への情報公開，利益相反管理昭和地区部会の設置等 ○ 「群馬大学利益相反管理昭和地区部会内規」 部会の審議事項，部会の組織，部会長の選出，研究科長等への報告等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年8回
・ 研修の主な内容 ○ 群馬大学医学部附属病院・昭和地区キャンパス「臨床試験に関する講習会」 治験・臨床研究に関して、大学病院臨床試験アライアンスと共催で、「臨床試験に関する講習会」を群馬大学医学部附属病院内で8回開催した。倫理指針で定める受講を研究者及び研究を実施する際の事務に従事する者、研究者の補助業務に当たる者に義務付けている。 〈各回の開催日時、演題、参加人数等〉 第1回 令和2年5月15日（金）15時～16時 参加者数 347名 「再生医療等製品の薬事開発に係る規制と早期実用化に向けた取組み」 群馬大学医学部附属病院臨床試験部 准教授 大山 善昭 第2回 令和2年5月15日（金）18時～19時 参加者数 287名 「再生医療等製品の薬事開発に係る規制と早期実用化に向けた取組み」 臨床試験部 准教授 大山 善昭 第3回 令和2年9月30日（水）17時～18時 参加者数 240名 「薬事規制と研究開発 ～アカデミア還元型PMDA出向のススメ～」 千葉大学医学部附属病院 臨床試験部 耳鼻咽喉・頭頸部外科 助教 黒川 友哉 第4回 令和2年10月5日（月）17時～18時 参加者数 209名 「臨床研究はなぜデザインされなければならないか Easy come, Easy go」 琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学講座 教授 植田 真一郎	

第5回（第3回の録画） 令和3年1月5日（火）15時30分～16時30分 参加者数 112名

「薬事規制と研究開発 ～アカデミア還元型PMDA出向のススメ～」

千葉大学医学部附属病院 臨床試験部 耳鼻咽喉・頭頸部外科 助教 黒川 友哉

第6回（第4回の録画） 令和3年1月22日（金）17時～18時 参加者数 91名

「臨床研究はなぜデザインされなければならないか Easy come, Easy go」

琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学講座 教授 植田 真一郎

第7回 令和3年3月2日（火）18時30分～19時30分 参加者数 175名

「新しい『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針』の用語の定義について」

群馬大学医学部附属病院臨床試験部 教授 中村 哲也

第8回 令和3年3月16日（火）18時30分～19時30分 参加者数 96名

「EBM の5つのステップと診療ガイドライン ～公益財団法人日本医療機能評価機構

発行 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル2017 重要用語集 ～」

群馬大学医学部附属病院臨床試験部 教授 中村 哲也

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院では、医学部附属病院の優れた教育機能を十分に活用し、充実した関連病院との連携のもとで、次代を担う実力ある専門医を養成している。具体的には、初期臨床研修で磨いた診療能力をさらに高め、各専門領域の学会認定専門医の取得を目指すための、後期専門研修プログラムを運用している。

当院の後期専門研修プログラム・コース一覧は、下記のとおり。

【令和 2 年度 群馬大学医学部附属病院 後期専門研修プログラム・コース一覧】

プログラム ・コース 運営診療科	プログラム ・コース名	受 入 人 数	プログラム ・コース 責任者名	各プログラム・コース で取得を目指す基 本領域専門医資格	基本領域専門医資格取得後に可能なサブスペシャル ティ研修 (資格名／学会等名)	サブスペシャ ルティ研修担 当医名
循環器内科	群馬大学内 科専門医ブ ログラム	30	池田 佳生	内科専門医／日本内 科学会	総合内科専門医／日本内科学会	倉林 正彦
					循環器専門医／日本循環器学会	金古 善明
					不整脈専門医／日本不整脈学会	高間 典明
					超音波専門医／日本超音波医学会	長坂 崇司
					核医学専門医／日本核医学会	田村峻太郎
呼吸器・アレ ルギー内科					呼吸器専門医／日本呼吸器学会	前野 敏孝 砂長 則明 古賀 康彦 原 健一郎
					アレルギー専門医／日本アレルギー学会	
					感染症専門医／日本感染症学会	
					気管支鏡専門医／日本呼吸器内視鏡学会	
					がん薬物療法専門医／日本臨床腫瘍学会	
消化器・肝臓 内科					総合内科専門医／日本内科学会	下山 康之
					消化器病専門医／日本消化器病学会	
					消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会	
					胃腸専門医／日本消化管学会	
					総合内科専門医／日本内科学会	柿崎 暁
					肝臓専門医／日本肝臓学会	
					消化器病専門医／日本消化器病学会	
消化器内視鏡専門医／消化器内視鏡学会						
内分泌糖尿 病内科					総合内科専門医／日本内科学会	岡田 秀一 中島 康代
					内分泌代謝科専門医／日本内分泌学会	
					糖尿病専門医／日本糖尿病学会	
					甲状腺専門医／日本甲状腺学会	
腎臓・リウマ チ内科					総合内科専門医／日本内科学会	廣村 桂樹
					腎臓専門医／日本腎臓学会	
					透析専門医／日本透析医学会	
					リウマチ専門医／日本リウマチ学会	
血液内科					総合内科専門医／日本内科学会	半田 寛
					血液専門医／日本血液学会	
					血栓止血学会認定医／日本血栓止血学会	
	がん薬物療法専門医／日本臨床腫瘍学会					

					がん治療認定医/日本がん治療認定医機構	
					輸血細胞治療学会認定医／日本輸血・細胞治療学会	
					造血細胞移植認定医／日本造血細胞移植学会	
脳神経内科					神経内科専門医／日本神経学会	藤田 行雄
					総合内科専門医／日本内科学会	
					認知症専門医／日本認知症学会	
循環器外科					心臓血管外科専門医/心臓血管外科専門医認定機構	阿部 知伸 増子 雄二 立石 渉
呼吸器外科					呼吸外科専門医/日本呼吸外科学会	清水 公裕 伊部 崇史 矢島 俊樹
					外科指導医／日本外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
消化管外科	群馬大学外 科専門研修 プログラム	24	調 憲	外科専門医／日本外 科学会	消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	佐伯 浩司 宗田 真 小川 博臣 緒方 杏一 酒井 真 佐野 彰彦 茂木 陽子 原 圭吾
					気管食道科専門医／日本気管食道科学会	
					食道科認定医・食道外科専門医／日本食道学会	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					臨床腫瘍学会暫定指導医／日本臨床腫瘍学会	
					大腸肛門病専門医・指導医／日本大腸肛門病学会	
					消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	
					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	
					胃腸科認定医・専門医・指導医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会	
					外科指導医／日本外科学会	
肝胆膵外科					消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	播本 憲史 新木健一郎 久保 憲生 渡辺 亮 塚越真梨子 五十嵐隆通
					肝胆膵外科高度技能専門医／日本肝胆膵外科学会	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	
					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	
					肝臓専門医／日本肝臓学会	
乳腺・内分泌 外科					乳腺専門医／日本乳癌学会	藤井 孝明 尾林紗弥香 矢島 玲奈
					内分泌・甲状腺外科専門医／日本内分泌外科学会	
					外科指導医/日本外科学会	
					がん治療認定医/日本がん治療認定医機構	
小児外科					小児外科専門医／日本小児外科学会	鈴木 信
					小児がん認定外科医／日本小児血液・がん学会	
					小児泌尿器科認定医／日本小児泌尿器科学会	
					日本周産期・新生児医学会認定医外科医	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					消化器病専門医／日本消化器病学会	
					胃腸科専門医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会	
					がん治療認定医/日本がん治療認定医機構	
泌尿器科	群馬大学泌 尿器科専門	7	鈴木 和浩	泌尿器科専門医／ 日本泌尿器科学会	がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	柴田 康博 関根 芳岳
					腎移植認定医／日本臨床腎移植学会	

	研修プログラム				泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会	野村 昌史
					生殖医療専門医／日本生殖医学会	
					透析専門医／日本透析医学会	
整形外科	群馬大学整形外科専門研修プログラム	11	筑田 博隆	整形外科専門医／日本整形外科学会	スポーツ医／日本整形外科学会	設楽 仁 飯塚 陽一 岡部 興一 田鹿 毅
					脊椎脊髄病医／日本整形外科学会	
					リウマチ専門医／日本リウマチ学会	
					手外科専門医／日本手外科学会	
					脊椎脊髄外科指導医／日本脊椎脊髄病学会	
皮膚科	群馬大学皮膚科専門研修プログラム	8	石川 治	皮膚科専門医／日本皮膚科学会	皮膚悪性腫瘍指導専門医／日本皮膚科学会	茂木精一郎 安田 正人
					皮膚美容科・レーザー指導専門医／日本皮膚科学会	
眼科	群馬大学眼科専門研修プログラム	7	秋山 英雄	眼科専門医／日本眼科学会	眼科光線力学的療法認定医／眼科 PDT 研究会	秋山 英雄
耳鼻咽喉科	群馬大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム	5	近松 一朗	耳鼻咽喉科専門医／日本耳鼻咽喉科学会	耳鼻咽喉科指導医／日本耳鼻咽喉科学会	新國 摂 高安 幸弘 紫野 正人 鎌田 英男
					補聴器相談医／日本耳鼻咽喉科学会	
					頭頸部がん専門医／日本頭頸部外科学会	
					気管食道科専門医／日本気管食道科学会	
					アレルギー専門医／日本アレルギー学会	
精神科神経科	精神科専門医研修プログラム	若干名	福田 正人	精神科専門医／日本精神神経学会	精神保健指定医／厚生労働省	藤平 和吉 須田 真史 武井 雄一 小野 樹郎
					精神科専門医指導医／日本精神神経学会	
					一般病院連携精神医学専門医／日本総合病院精神医学会	
					一般病院連携精神医学専門医指導医／日本総合病院精神医学会	
					精神保健判定医／(心神喪失者等医療観察法)法令による資格	
					日本児童青年精神医学会認定医／日本児童青年精神医学会	
麻酔科蘇生科	群馬大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム	25	齋藤 繁	麻酔科専門医／日本麻酔科学会	麻酔科専門医／日本麻酔科学会	高澤 知規 荻野 祐一
					集中治療専門医／日本集中治療医学会	
					ペインクリニック専門医／日本ペインクリニック学会	
脳神経外科	群馬大学医学部附属病院脳神経外科専門研修プログラム	8	好本 裕平	脳神経外科専門医／日本脳神経外科学会	脳血管内治療専門医／日本脳神経血管内治療学会	登坂 雅彦 藍原 正憲 清水 立矢 堀口 桂志 本多 文昭 山口 玲 大澤 匡
					脳卒中専門医／日本脳卒中学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構、日本脳腫瘍学会	
					機能的定位脳手術技術認定医／日本定位・機能神経外科学会	
					救急科専門医／日本救急医学会、日本神経外傷学会	
					脊髄外科認定医／日本脊髄外科学会	
					神経内視鏡技術認定医／日本神経内視鏡学会、日本小児神経外科学会	
小児科	群馬大学医学部附属病	12	荒川 浩一	小児科専門医／日本小児科学会	アレルギー専門医／日本アレルギー学会	滝沢 琢己 奥野はるな
					血液専門医／日本血液学会	

	院小児科専門研修プログラム				がん治療認定医／日本がん治療認定医機構 腎臓専門医／日本腎臓病学会 新生児専門医／日本周産期・新生児医学会 小児神経専門医／日本小児神経学会 小児栄養消化器肝臓認定医／日本小児栄養消化器肝臓学会 消化器内視鏡専門医／消化器内視鏡学会 消化器病専門医／日本消化器病学会 臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会	小林 靖子 藤生 徹 緒方 朋実 羽鳥 麗子 石毛 崇 本島 敏乃
産科婦人科	群馬大学医学部附属病院産婦人科専門研修施設群専門研修プログラム	7	岩瀬 明	産科婦人科専門医／日本産科婦人科学会	周産期専門医(母体・胎児専門医)／日本周産期・新生児学会 生殖医療専門医／日本生殖医学会 内視鏡外科学会技術認定医／日本内視鏡外科学会 内分泌代謝科(産婦人科)専門医／日本内分泌学会 婦人科腫瘍専門医／日本婦人科腫瘍学会	亀田 高志 平川 隆史 北原 慈和
放射線科	群馬大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラム	12	河村 英将 (代)	放射線科専門医／日本医学放射線学会	放射線治療専門医／日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会	河村 英将
核医学科			対馬 義人	放射線科専門医／日本医学放射線学会	放射線診断専門医／日本医学放射線学会	樋口 徹也
					核医学専門医／日本核医学会	中島 崇仁
					IVR 専門医／日本 IVR 学会	高橋 綾子
					超音波専門医／日本超音波医学会	宮崎 将也
検査部・感染制御部	群馬大学臨床検査専門研修プログラム	2	村上 正巳	臨床検査専門医／日本臨床検査医学会	ICD(インフュージョンコントロール・クター)／ICD 制度協議会 感染症専門医／日本感染症学会 人間ドック健診専門医／日本人間ドック学会 超音波専門医／日本超音波医学会 臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会 細胞診専門医／日本臨床細胞学会 消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会 臨床神経生理専門医／日本臨床神経生理学会	徳江 豊 木村 孝徳 小磯 博美 常川 勝彦 柳澤 邦雄 葭田 明弘 加藤 寿光
集中治療部	59:集中治療専門医コース	5	齋藤 繁		集中治療専門医／日本集中治療医学会	日野原 宏
病理部	群馬大学医学部病理専門研修プログラム	3	小山 徹也	病理専門医／日本病理学会		横尾 英明 伊古田勇人
リハビリテーション部	群馬大学リハビリテーション科専門研修プログラム	3	和田 直樹	リハビリテーション科専門医／日本リハビリテーション医学会		田澤 昌之
救急科	群馬大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム	3	大嶋 清宏	救急科専門医／日本救急医学会	集中治療専門医／日本集中治療医学会 腹部救急認定医／日本腹部救急医学会 熱傷専門医／日本熱傷学会 認定クリニカル・トキシコロジスト／日本中毒学会 外傷専門医／日本外傷学会	大嶋 清宏 青木 誠 村田 将人

総合医療部	群馬大学医学部附属病院家庭医療後期研修プログラム(平成 26 年度以前の卒業生向けプログラム)	3	田村 遵一	家庭医療専門医／日本プライマリ・ケア連合学会	総合内科専門医／日本内科学会	小和瀬桂子
					家庭医療専門医／日本プライマリ・ケア連合学会	
					認定病院総合診療医／日本病院総合診療医学会	
					老年病専門医／日本老年医学会	
					日本東洋医学会漢方専門医／日本東洋医学会	
	群馬大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム(平成 27 年度以後の卒業生向けプログラム)	3		総合診療専門医	未定（協議中）	
					認定病院総合診療医／日本病院総合診療医学会	
					日本東洋医学会漢方専門医／日本東洋医学会	
					老年病専門医／日本老年医学会	

※形成外科領域については、神戸大学の神戸大学形成外科研修プログラムの連携施設として専門研修が可能です。

専攻医として一般社団法人日本専門医機構が認定する基本領域の専門医の取得を目指す者の身分を、群馬大学医学部附属病院シニアレジデントとしている。

(当院のシニアレジデント制度の特色)

1. 大学病院／関連病院の優れた指導医のもとで、専門医修得に必要な多くの症例／手技を経験できる。
2. サブスペシャリティ分野につながる幅広い経験を積むことができる。
3. 大学院・社会人大学院に入学し、研修と研究の両立を目指すことができる。
4. 国内及び海外留学を積極的に勧める。
5. 希望者は、群馬大学医学部附属病院医師ワークライフ支援プログラムを利用することが可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	183 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
倉林 正彦	循環器内科	教授	39年	
前野 敏孝	呼吸器・アレルギー内科	准教授	27年	
浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科	教授	26年	
山田 正信	内分泌糖尿病内科	教授	37年	
廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	教授	31年	
半田 寛	血液内科	准教授	30年	
池田 佳生	脳神経内科	教授	28年	
福田 正人	精神科神経科	教授	37年	
滝沢 琢己	小児科	教授	25年	
佐伯 浩司	消化管外科	教授	26年	
調 憲	肝胆膵外科	教授	34年	
調 憲	呼吸器外科	教授	34年	
阿部 知伸	循環器外科	教授	28年	
藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	准教授	20年	
鈴木 信	小児外科	准教授	20年	
筑田 博隆	整形外科	教授	25年	
茂木 精一郎	皮膚科	教授	21年	
鈴木 和浩	泌尿器科	教授	32年	
秋山 英雄	眼科	教授	24年	
近松 一朗	耳鼻咽喉科	教授	31年	
大野 達也	放射線科	教授	27年	
対馬 義人	核医学科	教授	32年	
岩瀬 明	産科婦人科	教授	25年	
齋藤 繁	麻酔科蘇生科	教授	34年	
横尾 聡	歯科口腔・顎顔面外科	教授	33年	
好本 裕平	脳神経外科	教授	37年	
村上 正己	検査部	教授	38年	
徳江 豊	感染制御部	准教授	35年	
対馬 義人	放射線部	教授	32年	
齋藤 繁	集中治療部	教授	34年	
横尾 英明	病理部	教授	28年	
大嶋 清宏	救命・総合医療センター (救急部門)	教授	28年	
田村 遵一	救命・総合医療センター (総合診療部門)	教授	38年	
和田 直樹	リハビリテーション科	教授	25年	
中村 哲也	臨床試験部	教授	38年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・ 研修の主な内容
- ・ 研修の期間・実施回数
- ・ 研修の参加人数
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ―①）2020年9月28日…31名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ―②）2020年11月20日…24名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ―③）2020年11月16日…29名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ―④）2020年11月30日…29名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ―⑤）2020年10月19日…25名
 - キャリア専門コース（がん看護コースⅠ―⑥）2020年12月21日…28名
 - キャリア専門コース（糖尿病看護コースⅠ―①）2020年9月8日…34名
 - キャリア専門コース（糖尿病看護コースⅠ―②）2020年9月30日…36名
 - キャリア専門コース（糖尿病看護コースⅡ―①）2020年10月13日…22名
 - キャリア専門コース（糖尿病看護コースⅡ―②）2020年12月3日…22名
 - キャリア専門コース（皮膚排泄ケアコースⅠ―①）2020年10月23日…37名
 - キャリア専門コース（皮膚排泄ケアコースⅠ―②）2020年11月24日…32名
 - キャリア専門コース（皮膚排泄ケアコースⅡ―①）2020年12月18日…26名
 - キャリア専門コース（皮膚排泄ケアコースⅡ―②）2021年1月29日…29名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数 ○ ラダーレベル研修（リーダーシップⅠ コーチング基礎）2020年10月5日…71名 ○ ラダーレベル研修（リーダーシップⅡ）2021年1月23日…37名 ○ 令和3年度新規採用職員研修 e-learning＋資料配布で実施 257名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数 ○ 「緩和ケアについて」2020年9月10日…72名 ○ 「化学療法、放射線療法、妊孕性について」2021年1月14日…72名

（注）1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長：齋藤 繁
管理担当者氏名	総務課長：渡辺 英雄，医事課長：岡本 博幸

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	システム統合センター 薬剤部
		手術記録	システム統合センター 医事課
		看護記録	システム統合センター 医事課
		検査所見記録	システム統合センター 医事課
		エックス線写真	システム統合センター 各診療科
		紹介状	システム統合センター 医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	システム統合センター 医事課
		従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	紙媒体のファイルを保管、整理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEサプライセンター 管理運営課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEサプライセンター 管理運営課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEサプライセンター	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	監査室（大学本部）
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課、医療の質・安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室（大学本部）
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課 （大学本部）

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院長：齋藤 繁		
閲覧担当者氏名	総務課長：渡辺 英雄		
閲覧の求めに応じる場所	医学部附属病院		
閲覧の手続の概要			
閲覧希望者がいた場合には総務課にて対応している。			

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
・ 指針の主な内容： ○ 当院における安全管理の基本的考え方：安全文化の育成 ○ 医療安全を推進するための委員会等の設置 ○ 職員に対する研修の基本方針 ○ 事故報告などの医療に関わる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○ 事故発生時の対応に関する基本方針 ○ 情報の共有に関する基本方針（当該指針の閲覧に関する基本方針） ○ 患者相談への対応に関する基本方針 ○ その他の医療安全のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（①・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： ○ 医療業務安全管理委員会 ・ 本院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること ・ 分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従事者への周知に関すること ・ 改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること ・ 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療の質・安全管理部への報告の実施の状況の確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること ・ 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の過程では必要がない処置又は治療が必要となったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療の質・安全管理部への報告の実施の状況に関する確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること ・ 実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための本院職員への研修及び指導に関すること ・ 医療の質・安全管理部が行う医療安全に資する診療内容のモニタリングの内容に関すること ・ 本院の全職員に受講させる医療安全に関する研修に関すること ・ 医療業務の安全管理指針に係る病院長への提言に関すること ・ その他医療業務の安全管理に関する必要な事項 ○ 医療事故防止専門委員会 ・ 医療事故防止マニュアルに関すること ・ インシデント及びアクシデントに係る調査及び改善に関すること ・ 医療事故防止のための資料収集に関すること ・ 職員に対する医療事故防止の啓発及び研修に関すること ・ その他医療事故防止対策に関する必要な事項	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年6回
・ 研修の内容（すべて） ○ 医療安全職員研修 ・ 『特定機能病院に求められる医療の質・安全』（e-learning） ・ 『患者・家族と取り組むこれからの医療安全』（web配信・e-learning） ○ 医療安全セミナー ・ 『安全な鎮静のためにできること』（e-learning） ・ 『医療関係の個人情報』（e-learning） ○ CVC体制説明会（web配信） ・ 『CVCオンラインセミナー（G-STEP）について』 ・ 『安全なCVC実施のために』 ・ 『DSU使用手順について』 ○ ポケットマニュアルに関するe-learning（医療職必須）（e-learning） ※ 各研修は、一部を除きオンデマンドで配信し、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。 ※ 年2回の受講が義務付けられている医療安全管理研修の受講率は100%である。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（☒有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 各部門にリスクマネージャー81名を配置。（R3.3.1現在） ○ 部署、医療の質・安全管理部、各委員会において分析、対策立案を行い、実施状況を確認。院内へ向け、リスクマネージャー会議内容及び『医療安全情報』を発信している。医療の質・安全管理部及び各種委員会での検討事項を各部署にフィードバックし、日々及び定期の巡視等でその実施状況を確認している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ○ 病院感染対策に関する基本的な考え方 ○ 感染対策委員会及び感染制御部 ○ 職員研修 ○ 病院感染発生状況の調査並びに病院感染発生時の対応 ○ 病院感染対策マニュアル ○ 患者への情報提供と説明 ○ その他の病院感染対策の方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： ○ 感染対策の実施及び指導 ○ 感染対策に関する必要事項の検討 ○ 感染症の情報収集、整理、解析及び対策 ○ 感染症の解析結果の迅速な情報提供 ○ 感染症の継続的観察及び対策実施後の評価 ○ 感染症に関する啓発、講習、教育 ○ 感染防止のためのガイドライン及びマニュアルの整備	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容（すべて）： ○ 感染対策研修 ・ 『感染予防と対応ver. 2020春』 ・ 『当院のCOVID-19診療状況』 ・ 『当院の抗菌薬使用状況』 ・ 『当院の過去5年間の耐性菌の推移～AMR対策アクションプランを中心に～』 ・ 『結核、潜在性結核を疑った時の対応』 ※ 各研修は、オンデマンドで配信し、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。 ※ 年2回の受講が義務付けられている医療安全管理研修の受講率は100%である。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 毎週感染制御部ミーティングで各部署の感染症の発生状況を確認し、感染対策および感染症治療の内容を検討し、問題点がある場合は現場へICT巡視およびAST巡視を通じてフィードバックしている。 ○ 4職種で構成されたICTメンバーによる院内ラウンドを毎週行い患者毎の感染対策の遵守状況や環境巡視を行い改善につなげている。 ○ 医療関連感染サーベイランスは、SSI、BSI、UTI、VAEを実施し、プロセスサーベイランスでは手指衛生向上のため、手指消毒剤の消費量や遵守率を確認している。また、結果を分析し対象部署へフィードバックを行い改善に努めている。 ○ 抗菌薬適正使用支援として、感染症治療に関するコンサルテーション、血液培養陽性者および広域抗菌薬使用患者のスクリーニングを毎日行っているほか、毎週ASTラウンドを行ない抗菌薬適正使用の推進を図っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
・ 研修の主な内容： ○ 新入職者全員を対象にした医薬品の取扱いについての講義を実施 ○ 看護部開催の新人看護師を対象にした「静脈注射研修会」の講義(注射薬(ハイリスク薬)の取扱い等を担当 ○ 全職員を対象とした医薬品安全管理研修を実施	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○ 平成30年12月28日付で発出された「医薬品の安全使用のための業務手順書作成マニュアルの改訂について」に基づき見直し(改訂準備)を行った(2019年7月に改訂)。その後2021年1月に軽微な改定を行った。 ○ 「医薬品の安全使用の業務手順書」に基づいた業務の実施状況について、チェックリストにより毎月確認している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： ○ 成人発症スティル病患者へのシクロスポリン投与 ○ 再発・進行小細胞肺癌に対するWeekly CBDCA+PTX療法 ○ 家族性高コレステロール血症ホモ接合帯(コンパウンドヘテロ接合体を含む)に対するレパース皮下注140mgおよび420mgオートミニドザー投与 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 処方箋の疑義照会による情報把握 ○ 医薬品医療機器総合機構からのメール受信(PMDAメディナビ) ○ 製薬企業のMRからの情報収集 ○ 病棟担当薬剤師からの情報提供 ○ ガイドライン等で記載があるが、適応の無い場合は、適応外申告書の受理による適応外使用の把握。 ○ 臨床倫理委員会専門委員会で承認された未承認薬や適応外の医薬品の使用状況を確認し、把握している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年138回 (ME機器等) 年10回 (放射線機器)
・ 研修の主な内容： ○ ME機器部門が管理している医療機器について、装置の有効性・安全性及び操作方法、トラブル対応、保守点検等について受講者に対し説明し、小テストを実施し理解度を確認している。 ○ 放射線治療部門（リニアック及びマイクロセレクトロン）は、新規スタッフ4回、定期研修3回を実施。重粒子部門は、新規スタッフ1回、定期研修2回を実施。よって、研修は合計10回の開催である。 内容は、装置の有効性、使用方法、不具合対応、法令遵守の項目について、部門主任が部門の診療放射線技師、看護師を対象に実施した。新規スタッフ研修は、ローテーションで配属された診療放射線技師向けの研修である。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ○ 輸液ポンプ・シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、除細動装置、下肢圧迫装置、電気メス、内視鏡装置、患者体温管理装置、生体情報モニタ等は院内で臨床工学技士が保守点検計画を立て実施している。 ○ 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、麻酔器、血液浄化装置、手術台等は臨床工学技士が保守点検計画を立てメーカーに実施依頼している。 ○ リニアック、マイクロセレクトロン、重粒子線治療装置は保守契約を結び保守点検を実施。end of support (EOS) となった機器については、スポット点検にて保守を実施している。 ○ 放射線部保有のクラスⅡ装置についても、保守契約、スポット点検、自主点検により、保守を実施している。 ○ 隔月で開催されているME機器等管理運営委員会にて、保守点検状況を報告している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ○ PMDAからの情報及びメーカーからの案内を元に、情報収集を行っている。医療機器等の改修案内等についてはME機器等管理運用委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。また、MEサプライセンターのホームページに掲載している。 ○ NICUよりシリンジポンプの流量上限を300ml/h（メーカー出荷時150ml/h）に変更依頼があった。ME機器等管理運用委員会にて協議。流量上限変更により設定ミス、治療効果のメリット、メーカーからの意見、他施設の使用状況らを調査。医療機器安全管理責任者、医療の質・安全管理部、NICU医師、看護部、臨床工学技士らで協議。流量上限を変更せず、別の運用で対応することになった。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 未承認等の医療機器を使用する際または医療機器の適応外使用する際は、担当医が先端医療開発センターの担当窓口へ申請し、同センターから臨床倫理委員会専門委員会に諮って審議しその結果に基づき同センターが使用について決定した後に医療機器安全管理責任者に報告している。 ○ 老朽化した放射線機器について、各メーカーから情報提供および提案を促し機器更新のための情報を収集し、機器更新を実施できた。	

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ○ 副病院長を医療安全管理責任者に選任し，医療業務安全管理委員会において下記部門及び責任者から医療安全に関する報告を行わせ，状況を確認している。 医療安全管理部門 =医療の質安全管理部 医療安全管理委員会 =医療業務安全管理委員会 医薬品安全管理責任者 =薬剤部長 医療機器安全管理責任者=病院長補佐（材料・薬品担当）	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（8名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ○ 医薬品安全管理責任者の指示により，薬剤部 DI センター担当者(DI センター主任)が担当している。採用医薬品について，医薬品添付文書情報の確認，医薬品医療機器総合機構からのメール受信，医薬品製造販売業者や行政機関，学術雑誌からの情報収集を行い管理している。また情報収集した内容で周知が必要と思われる情報については，処方医や診療科への書面の周知の他，全職員へのメール送信や毎月発行している DI ニュースで院内職員に周知している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ○ 薬剤部内の高度薬物療法研究開発部門(部門担当者は兼任。教員，DI 担当者等が担当。主担当者は DI 主任。)が未承認薬等の使用に関する状況を把握している。使用に関する情報は，薬剤師 GRM や，薬剤部から委員として出席している臨床倫理専門委員会等から収集している。 ガイドライン等に記載はあるが未承認の医薬品については，手順に従って適応外使用申告書を薬剤部 DI センターで受理し把握している。 ・ 担当者の指名の有無 (有)・無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部，職種 薬剤師 (DI 主任))	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (④・無) ○ 「群馬大学医学部附属病院医療行為等の説明及び同意の取得に関する規程」 ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ○ 医療行為等の説明に関する責任者の指定（医療の質・安全管理部長）、説明書による説明及び同意書の取得が必要な医療行為等の明示、説明内容、人権及び自己決定権の尊重、同席者について。 ○ その他「インフォームド・コンセントに関する指針」において、看護師の同席や役割、カルテ等への記録方法も含め、具体的に明示している。 ○ 侵襲的医療行為に関する説明同意文書については、必要な事項を網羅した書式及び形式を整えた「雛型」を各診療科等に明示し、これを基に各診療科等で作成した説明同意文書を臨床倫理委員会専門委員会で承認する体制を構築している。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	⑤・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ○ 診療情報管理部長が診療録等の管理に関する責任者を兼任しており、そのもとで以下の業務を行っている。 ○ 診療録の記載内容について、多職種によるピアレビューを年2回実施している。その結果を全診療科にフィードバックし、また評価の低い診療科には、改善計画書の提出を求めている。 ○ 診療情報管理士によるカルテレビューを行い、毎月2～3診療科に対して良い点や改善点をフィードバックしている。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
・ 所属職員：専従（6）名，専任（1）名，兼任（ ）名 - うち医師：専従（3）名，専任（1）名，兼任（ ）名 - うち薬剤師：専従（1）名，専任（ ）名，兼任（ ）名 - うち看護師：専従（2）名，専任（ ）名，兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ○ 医療の質・安全の向上に関すること全般 ○ 医療業務安全管理委員会，事故防止専門委員会，事故調査専門委員会及びリスクマネージャー会議の審議事項に係る助言並びに当該会議等の資料・議事録の作成及び保存等 ○ 医療事故発生時の即時対応並びに事故調査専門委員会開催の判断 ○ 事故等に関する診療録・看護記録等への正確かつ十分な記載についての確認・指導 ○ 患者・家族への説明及び事故発生時の対応状況についての確認・指導 ○ 事故等の原因究明の適切な実施についての確認・指導 ○ インシデント及びアクシデント報告書の管理及び即時調査・分析 ○ ゼネラルリスクマネージャーの育成 ○ 医療安全に係る連絡調整並びに医療安全対策の推進 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には，専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（60件），及び許可件数（59件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（(有)・無） ○ 「先端医療開発センター」を平成29年4月より設置した。 ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に，従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（(有)・無） ○ 「群馬大学医学部附属病院高難度新規医療技術取扱要領」	

- ・ 活動の主な内容：

- 高難度新規医療技術の使用の決定，実施の支援及びモニタリング，先端医療・新規医療技術の提供に関わる研修・教育の企画等

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

- 先端医療開発センターの医師が，センターが決定した医療行為等の調査を行うときに遵守状況も併せて確認している。

- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

- 「群馬大学医学部附属病院臨床理委員会」及び「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会専門委員会」で対応

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め，使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件），及び許可件数（1件）

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め，使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）

- 「先端医療開発センター」を平成29年4月より設置した。

- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に，従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

- 「群馬大学医学部附属病院高難度新規医療薬品取扱要領」

- 「群馬大学医学部附属病院高難度新規医療機器取扱要領」

- ・ 活動の主な内容：

- 未承認新規医薬品等の使用（保険適用外使用も含む）の決定，実施の支援及びモニタリング，先端医療・新規医療技術の提供に関わる研修・教育の企画等

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

- 「先端医療開発センターの医師が，センターが決定した医療行為等の調査を行うときに遵守状況も併せて確認している。

- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

- 「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会」及び「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会専門委員会」での対応

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 425 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 383 件（レベル 3b 以上）
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 死亡事例は全て即時に医療の質・安全管理部に報告させ、医療業務安全管理委員会に報告するよう徹底している。
 - 上記に加えて死亡症例検証委員会で全死亡症例を詳細かつ効果的に検証している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：防衛医科大学校病院）・無）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：東京大学医学部附属病院）・無）
- ・ 技術的助言の実施状況
 - 新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、訪問調査をとりやめ、紙面調査のみ実施した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
 - 「群馬大学医学部附属病院医療安全管理指針」（令和 2 年 1 月 7 日改訂・施行：医療安全管理委員会）の「7）患者相談への対応に関する基本方針」に記載するとおり、医事課、医療の質・安全管理部及び患者支援センターの各部署が連携して対応している。患者相談の一次対応の組織としては、「群馬大学医学部附属病院患者相談窓口設置要項」（平成 31 年 2 月 4 日制定）により、患者支援センター長を責任者とし、医師、看護師、事務職員及びソーシャルワーカーからなる患者相談窓口を設置。相談内容により各部署に振り分け対応している。そのためフローを整備しているほか、相談内容とその対応についての検討を行うカンファレンスを原則週 1 回実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- 病院の新規採用職員研修において、医療安全の基本等について、医療の質・安全管理部長が講話を実施している。
- 医療安全・感染対策職員研修に加え、最近のトピックや改革関連をテーマにした安全セミナーを開催し、年2回の受講が義務づけている。また、医療事故防止ポケットマニュアルの習熟度を確認する研修をe-learning形式で、医療職必須の研修として実施している。
- 各研修は、一部を除きオンデマンドで配信し、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。
- 令和2年9月14日から18日にかけて「医療安全週間」を実施し、その中で、他施設で医療事故を経験したご遺族の講演会を医療安全職員研修として実施した。また、医療安全週間中は、各部門から活動紹介のポスター展示や医療安全に関する標語の掲示を行った。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- 2020 年度特定機能病院管理者研修 (日本医療機能評価機構実施)
 - ・ 令和3年1月20日 薬剤部長 (医薬品安全管理責任者)
 - ・ 令和3年2月4日 病院長 (管理者) 及び副病院長 (医療安全管理責任者)
 - ・ 令和3年2月14日 MEサプライセンター長 (医療機器安全管理責任者)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

- 日本医療機能評価機構による病院機能評価【一般病院3（主機能）、精神科病院（副機能）】
訪問審査受審日 2019年5月15日～17日
認定期間 2019年1月26日～2024年1月25日（初回認定2004年1月26日）
公布日 2020年7月3日

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

- 本院ホームページから日本医療機能評価機構のホームページへリンクするように設定しており、評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容等の評価の詳細を公表している。
ホームページ https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10787

・ 評価を踏まえ講じた措置

- 臨床検査結果のパニック値報告について、看護師など医師以外に報告された分も含めて、その日のうちに医師に適切に伝達されたことを、検査部医師が確認している。また、病理診断結果報告の未読対策について、2019年12月16日から統合診療支援プラットフォームCITAの運用を開始した。（放射線・病理レポートの既読状況について、医師単位、診療科単位での自己監査、及び病院としての全体監査が可能）。さらに、各診療科のリスクマネージャーが既読/未読リストを確認するとともに、リスクマネージャー会議で診療科毎の未読率を毎月フィードバックする運用を開始し、運用手順の周知を進めることで、未読率の低下に努めている。
- 病棟での内服薬投与前の薬剤準備方法について、2019年9月24日の医療業務安全管理委員会にて、医療事故防止マニュアル「入院患者の内服管理」の改訂が承認され、2019年10月1日から全部署でマニュアルどおりの薬剤準備方法に変更した。また、2020年3月に、各部署でマニュアルどおりに薬剤準備が行えていることを、看護師リスクマネージャーが相互チェックにて確認した。
相互チェックにて判明した検討事項については、同月の看護部医療安全対策委員会にて対応策を検討し、実施することとした。
- 診療記録の量的点検実施要綱に基づき、2019年8月以降は拡充した項目で、全ての退院患者を対象に点検を行っている。記載に不備があったものについては、チェックシートを用いて各診療科の医師へフィードバックを行い、適切に補完している。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

1. 医師免許を有している者
2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者
具体的には医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等
3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者
具体的には、当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力等
4. 先般の一連の医療事故を踏まえ、これまで推進してきた改善・改革を継続するために必要な資質・能力を有している者
具体的には、継続中の「改革工程表の各項目（提言等）」について、評価・効率化・改良等も加えながら実行する姿勢と指導力等
5. 当院に求められる使命を遂行するために必要な資質・能力を有している者
具体的には、大学の附属病院としての使命である、診療・教育・研究の充実等はもとより、大学の中期目標における「附属病院に関する目標」の項に掲げた次の事項について、継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等
 - ① 医療安全管理体制の改革を行う。また、患者の権利に配慮し、患者の目線に立った、患者中心の医療を行う。
 - ② 高度急性期病院の体制と機能を強化し、超高齢社会の医療の中核を担う。
 - ③ 地域医療及び先端医療への社会の要請に応えられる未来を担う医療人を育成する。
 - ④ 未承認医療機器や保険未収載医療機器等の臨床試験を推進し、地域社会、国際社会に貢献する。
6. 群馬県の中核病院として、地域医療に貢献するために必要な資質・能力を有している者
具体的には、群馬県や群馬県医師会等とも連携し、地域の中核病院として県域全体の医療に貢献すること等について、継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）

・ 公表の方法

- 大学のホームページに掲載
<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 ○ 大学のホームページに掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
児島 昌樹	群馬大学理事	○	医学部附属病院長候補者選考会 議細則第3条第1号に基づく学長 が指名する理事	有・無
石崎 泰樹	群馬大学大学院 医学系研究科		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第3条第2号に基づく役職 指定	有・無
塚越 聖子	群馬大学医学部附 属病院		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第3条第3号に基づき医学 部附属病院から選出	有・無
北川 雄光	慶應義塾大学病院		慶應義塾大学病院長として、医学 ・医療について豊富な経験と高い 識見を有している	有・無
山口 育子	認定NPO法人さ さえあい医療人権 センターCOML		医学部附属病院改革委員会委員 として、本院の医療事故や改革に ついてご理解いただいている。 また、厚生労働省の大学附属病院 等のガバナンスに関する検討会 の構成員を務められるなど医療 安全に対する高い識見を有して いる	有・無
高木 賢	公立大学法人高崎 経済大学		国の行政、弁護士活動、大学運営 を通じて、幅広く豊富な経験と高 い識見を有し、群馬県の経済事情 や課題等にも精通している	有・無
塚越 日出夫	群馬県社会福祉事 業団		群馬県健康福祉部長を歴任され るなど、群馬県の保健・医療・福 祉全般に豊富な知見を有してい る	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			①・無
・ 合議体の主要な審議内容 ○ 群馬大学医学部附属病院規程において、「病院運営会議」を「管理運営に関する重要事項を審議するため」の機関と位置づけている。 ○ 病院運営会議の審議事項は、「群馬大学医学部附属病院運営会議規程」に規定され、病院の医療提供機能、教育研修機能及び研究開発機能を達するための基本的計画に関する重要事項について審議するほか、次の各号に掲げる事項について審議する。 (1) 運営方針に関すること。 (2) 中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。 (3) 予算及び決算に関すること。 (4) 人員配置に関すること（事務職員を除く）。 (5) 施設の設置及び廃止に関すること。 (6) その他病院の管理運営に関する重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 ○ 円滑な病院運営に資するため、診療科長や部門長等で組織する「臨床主任会議」において、病院運営会議の審議及び報告事項を周知している。また、病院の管理運営について必要な意見を聴くため、各診療科等から選出された中堅層の職位で組織する「病院連絡会議」において、同様に周知するとともに、各診療科等においては、内容をカンファレンス等で広くスタッフに周知している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（①・無） ・ 公表の方法 ○ 本学ホームページ（病院）において掲載 https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（①・無） ○ 病院運営会議に外部有識者として参画している群馬県病院協会会長等から、その都度意見聴取を行い、俯瞰的視点からの意見等を管理及び運営に活かしている。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
齋藤 繁	○	医師	病院長
調 憲		医師	副病院長（医療安全担当）
河村 恵美		看護師	副病院長（看護・療養環境担当）
村上 正巳		医師	特命副病院長（感染対策担当）

小松 康宏		医師	特命副病院長（病院機能評価担当）
鈴木 和浩		医師	特命副病院長（地域連携・病床運用担当）
山田 正信		医師	特命副病院長（材料・薬品・ICT 化推進担当）
大嶋 清宏		医師	病院長補佐（保険診療・防災担当）
対馬 義人		医師	病院長補佐（院内環境・労務担当）
池田 佳生		事務職員	病院長補佐（広報・卒後研修・教育担当）
濱田 智		事務職員	病院長補佐（施設担当）
安部 則行		薬剤師	病院長補佐（財務・管理担当）
山本 康次郎		歯科医師	特命病院長補佐（薬事）
横尾 聡		技術職員	特命病院長補佐（歯科医療）
中嶋 清美		技術職員	検査部臨床検査技師長
須藤 高行			放射線部診療放射線技師長
西松 輝高			病院顧問（群馬県病院協会会長）
田村 遵一			病院顧問（群馬パース大学教授）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法
 - 本学ホームページ（病院）において掲載
https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799
- ・ 規程の主な内容
 - 病院の目的，病院長の業務，病院長を補佐する各幹部職員の業務，病院運営会議ら各種会議体の役割，病院に設置される診療科・診療施設等
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長・・・病院長の職務を補佐し，病院長不在の時はその職務を代行する。医療安全管理責任者としての役割も負う。
 - 病院長補佐・・・病院長が指示する管理運営等に関する個別具体的事項について，企画・立案及び連絡調整等を行う。
 - 病院顧問・・・病院の診療及び経営に関する諸課題や重要事項について，助言を行う。
 - 特命副病院長・・・病院長の補佐機能を強化する。
 - 特命病院長補佐・・・病院長の指示する特命事項について企画・立案及び連絡調整等を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 2020 年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）
 - ・ 令和3年2月4日 病院長（管理者）及び副病院長（医療安全管理責任者）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ※令和 2 年度実績 ・ 活動の主な内容： ＜令和 2 年度第 1 回病院監査委員会 令和 2 年 12 月 3 日＞ ※Web 会議形式で開催 （議事内容）1. 医療安全に係る各責任者の業務状況について 2. 医療業務安全管理委員会の活動について 3. 医療の質・安全管理部の活動について 4. 臨床倫理審査について 5. その他 ・ 臨床研修医の状況について ・ 初期臨床研修医マッチング状況について ＜令和 2 年度第 2 回病院監査委員会 令和 3 年 3 月 1 日＞ （議事内容）1. 医療安全に係る各責任者の業務状況について 2. 医療業務安全管理委員会の活動について 3. 医療の質・安全管理部の活動について 4. 臨床倫理審査について 5. その他 ・ 外科診療体制の改革状況について ・ 患者参加型医療の取組について ・ 地域医療研究・教育センターの取組について ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（(有)・無） ・ 委員名簿の公表の有無（(有)・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（(有)・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（(有)・無） ・ 公表の方法： ○ 本学ホームページにおいて掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g25693	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者 団体連合会理 事長 一般社団法人 グループ・ネク サス・ジャパン 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける立場から意 見を述べること ができる者	有・ ☒ 無	2
岡崎 浩巳	地方公務員共 済組合連合会 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける立場から意 見を述べること ができる者	有・ ☒ 無	2
神谷 恵子	神谷法律事務 所 弁護士		法律に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
児玉 安司	新星総合法律 事務所 弁護士/医師		医療に係る安全 管理に関する識 見及び法律に関 する識見を有す る者	有・ ☒ 無	1
中屋 光雄	群馬県医師会 監事		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
谷 修一	国際医療福祉 大学名誉学長		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
堀田 知光	国立研究開発 法人がん研究 センター名誉 総長	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
吉田 慎一	株式会社テレ ビ朝日ホール ディングス代 表取締役社長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける立場から意 見を述べること ができる者	有・ ☒ 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

- 病院長が行う病院運営が法令に適合することを確保するため、監査室（大学本部）が学長の命により行う内部監査で、法令の遵守状況を踏まえた病院運営の取組みに対する有効性を検証し、適時に見直しを行う。

・ 専門部署の設置の有無（☒有・無）

- 群馬大学監査室

・ 内部規程の整備の有無（☒有・無）

- 「群馬大学内部監査規程」

・ 内部規程の公表の有無（☒有・無）

・ 公表の方法

- 本学ホームページにおいて掲載
<https://www.gunma-u.ac.jp/kisoku/>
https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ○ 役員会では毎月、病院の収支状況報告を行うとともに、病院の管理運営状況を報告し、役員による監督を実施している。 ○ また、病院監査の視点から、監事が病院長巡視及び医療業務安全管理委員会に毎回出席し、医療現場の視察、スタッフからの生の意見の聞き取り及び医療事故と再発防止策の確認並びに医療安全の確認等を実施している。 ・ 会議体の実施状況（年38回）※役員会の令和2年度開催実績 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（☒有・無）（年11回）※令和2年度実績 ○ 病院の管理運営について、役員会で報告した回数。病院長は病院担当理事に任命されており、役員会の構成員となっている。 ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ○ 「国立大学法人役員会規則」 「国立大学法人理事に関する申合せ」 ・ 公表の方法 ○ 本学ホームページにおいて掲載 https://www.gunma-u.ac.jp/kisoku/			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無）

- 職員用のご意見箱や多様な内部通報方法を構築している。

- ・ 通報件数（年 2 件）

- 令和 2 年度実績（職員用のご意見箱から 2 件）

- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための
の方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無）

- 「国立大学法人群馬大学公益通報要項」を定め、公益通報の所管を危機管理室とし、通報の
授受は秘密の保持に配慮しつつ、メール、電話、FAX による専用の窓口を設けるとともに、
外部機関を経由した匿名の通報を受け入れる窓口（内部通報ホットライン）を設置している。

通常の内通報ホットラインとは別に、学外の弁護士が窓口となる病院における診療に関する
内通報ホットラインを設置している。

また、「群馬大学医学部附属病院職場改善のためのご意見等に関する申合せ」を定め、職場
改善のための意見を授受する専用の窓口を設けている。

- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無）

- ・ 周知の方法

- 病院運営会議、臨床主任会議等で周知した。さらに、内通報ホットラインについては、名
刺サイズの周知のためのカードを作成し、全教職員に配布している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ○ 本院ホームページにおいて、病院の理念、基本方針等を始め、病院指標や各診療科の医療技術や、部門等の取組について紹介している。 ○ 「群大病院だより」を年2回発行し、病院の取組、新技術や部門の紹介を掲載して、患者さんや地域の医療機関等に配布して情報を発信している。 ○ 病院規程等、病院の主要規程をホームページで公表している。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○ 外科診療センター、内科診療センターを設置し、外科及び内科それぞれの臓器別診療科を統括している。センターでは、臓器別診療科毎のカンファレンスに加え、多職種によるセンター全体の合同カンファレンスを実施するとともに、問題事例に関しては、合併症・死亡症例カンファレンスを開催している。 ○ 各種がんの治療方針等について、診療科等の枠を超えた多職種で検討するカンサーボード体制を整備。カンサーボード指針に従い、担当する診療科のみならず、関連する診療科の医師、薬剤師、看護師等の多職種が参加する。 ○ 先端医療開発センターでは、各診療科、部門等から推薦された多職種のサーベイヤーが連携し、センターで指定した各医療行為の実施状況調査・確認を行う「モニタリングサーベイヤー制度」を整えた。この制度は、医療者の意識や風土文化の改革も目的としており、各診療科間の相互チェックを兼ねる位置付けとしている。	